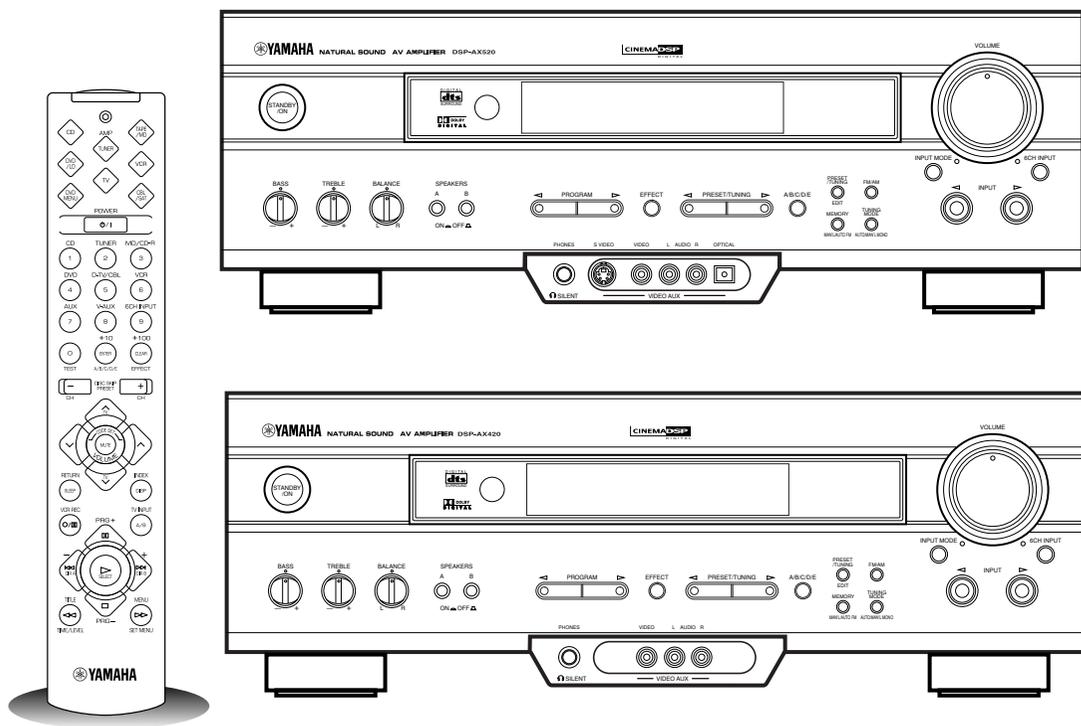


AVアンプ

# DSP-AX520

# DSP-AX420

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER



## 取扱説明書

このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-AX520/DSP-AX420をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

DSP-AX520/DSP-AX420の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

本機の機能

ご使用の前に

基本操作

応用操作

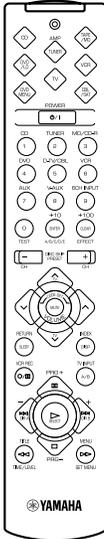
参考



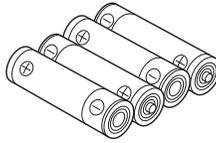
## 付属品

同梱されている付属品を確認してください。

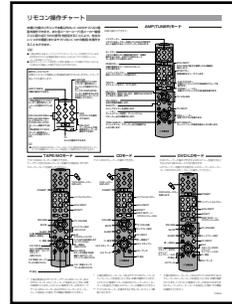
リモコン



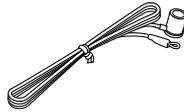
単4乾電池（4本）



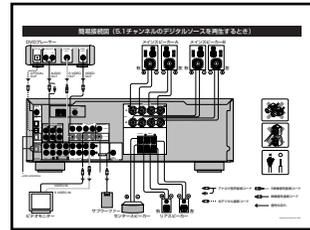
リモコン操作チャート



FM簡易アンテナ



簡易接続図



AMループアンテナ



## 特長

DSP-AX520/DSP-AX420は臨場感あふれるエンタールテイメントをご家庭にお届けするAVアンプです。

ヤマハの最新技術により、あたかも世界の主要な劇場、映画館にいるような音場体験が家庭にしながら体験できます。実測データに基づく音場プログラムから独自の技術を駆使したシネマDSPまで数々の最新プログラムを搭載しています。

また本機には、リアスピーカーを設置しなくてもDSPの臨場感や迫力をお楽しみいただけるバーチャルシネマDSP、ヘッドホーンでDSPがお楽しみいただけるサイレントシアターを装備しております。

本取扱説明書をお読みいただき、DSP-AX520/DSP-AX420がもたらす新しい音場体験を心ゆくまでお楽しみください。

- 5チャンネル(メイン×2、センター×1、リア×2)  
ハイパワーアンプ内蔵  
定格出力(20Hz~20kHz、歪率0.06%、6Ω)  
DSP-AX520 ..... 70W X5  
DSP-AX420 ..... 65W X5
- DTS(デジタルシアターシステムズ)対応
- ドルビーデジタル対応
- ドルビープロロジック対応
- Hi-Fi DSP
- シネマDSP
- バーチャルシネマDSP  
(P.25「バーチャルシネマDSP」参照)
- サイレントシアター  
(P.25「サイレントシアター」参照)
- 6CH INPUT端子装備  
(P.11「外部デコーダーの接続」参照)
- 高機能AM/FMステレオチューナー
- いくつかの他メーカーのAV機器が操作可能な多機能リモコン付属

# 安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

## 絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。たとえば ⚠ は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。たとえば 🚫 は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。たとえば 🔌 は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

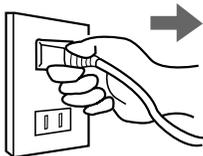


## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



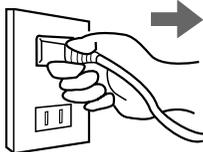
煙が出たり変なおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



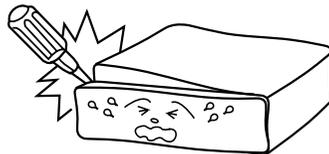
機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



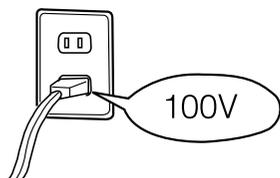
分解・改造を絶対しない  
(キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



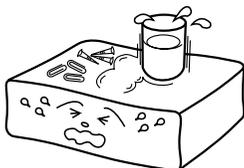
電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



火災・感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



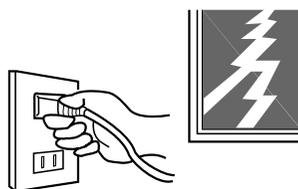
水や金属類を入れたり、ぬらさない



火災・感電の原因となります。本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。また、本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。



雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



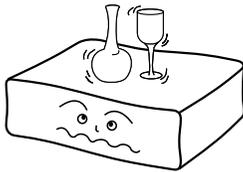
感電の原因となります。



# 警告

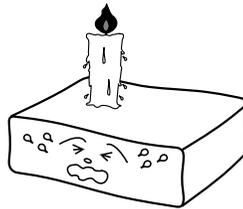
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 陶器やガラス類などを置かない



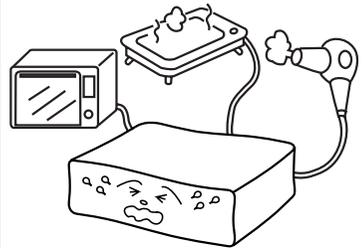
振動により落ちたり、倒れたり、割れたりするとケガをする恐れがあります。

- ⊘ 火のついたローソクなどを置かない



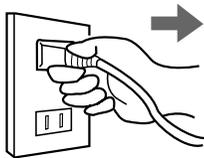
火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



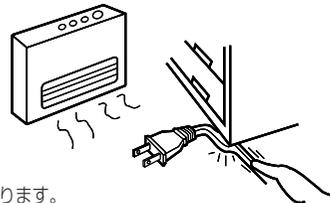
火災の原因となります。接続機器の消費電力の合計が本機背面上に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

- ⊘ 落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- ⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない  
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っ張る、束ねる、重いものをのせるなどしない)



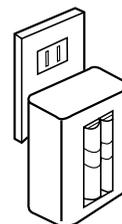
火災・感電の原因となります。  
●コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

- ⊘ 放熱のため：  
布やテーブルクロスをかけない  
じゅうたん・カーペットの上には、設置しない  
あおむけや横倒しには設置しない  
通気性の悪い狭いところへは押し込まない  
他の機器とは重ねて設置しない



火災の原因となります。

- ⊘ 乾電池は充電しない

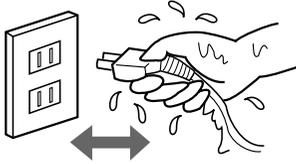


液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因となります。

# ⚠️ 注意

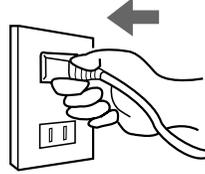
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

⚠️ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

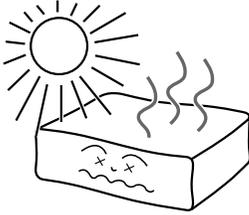
⚠️ 電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⊘ 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



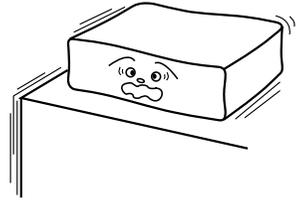
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

⊘ 湿気やほこりの多い場所に置かない



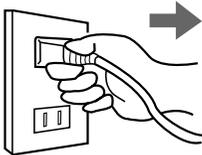
加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。本機内部に結露が生じると故障するだけでなく、火災・感電の原因となります。

⊘ 振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



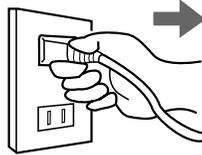
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

🔌 各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



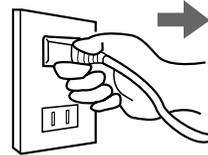
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

🔌 移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

🔌 お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

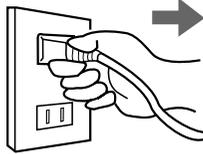


## 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く



火災の原因となることがあります。



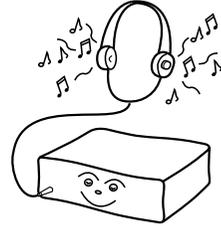
再生を始める前には音量を最小にする



突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。



ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。



付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス $\oplus$ とマイナス $\ominus$ ）通りに入れる

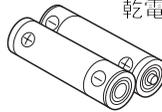


間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



指定以外の乾電池は使用しない

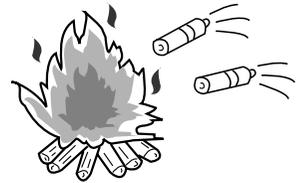
取扱説明書に記載されている乾電池を使用する



また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。



乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。

●デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

### 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものですよ。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 目次

## 本書の記載について

- 本書はDSP-AX520とDSP-AX420の取扱説明書です。各機種固有の機能については、機種名を明記して説明しています。共通の機能についてはDSP-AX520のイラストを使用しています。
-  は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
- 本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが本体とリモコンのボタン名が異なる場合は、リモコンのボタン名を括弧内に表記しています。
- 説明の便宜上、文中のイラストが実際の製品と異なる場合があります。



ドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、AC-3、ドルビーデジタル、PRO LOGIC、およびダブルD記号  は、ドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権1992～1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。さらに、以下のPCT(特許協力条約)/US95/0059 に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

付属品／特長 ..... 表紙裏

## 本機の機能

各部の名称とはたらき ..... 2

## ご使用前に

スピーカーの設置 ..... 8  
接続のしかた ..... 9  
スピーカーモードの設定 ..... 17  
スピーカーのレベル調節 ..... 18

## 基本操作

再生 ..... 20  
FM/AM放送を聴く ..... 26  
録音と録画 ..... 31

## 応用操作

セットメニュー ..... 32  
ディレイタイムとエフェクトスピーカーの  
レベル調節 ..... 38  
スリープタイマー ..... 40  
リモコンで操作する ..... 41  
音場プログラム ..... 48

## 参考

故障かな？と思ったら ..... 51  
仕様(DSP-AX520) ..... 54  
仕様(DSP-AX420) ..... 55  
用語集 ..... 56  
索引 ..... 58  
メーカーコード一覧表 ..... 59  
ヤマハホットラインサービスネットワーク ..... 裏表紙

本機の機能

ご使用前に

基本操作

応用操作

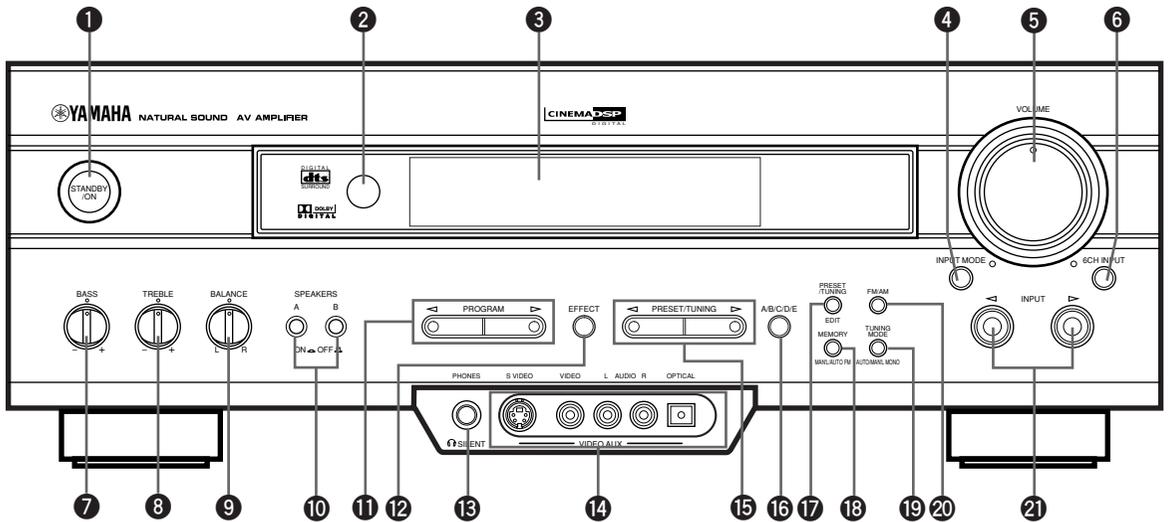
参考



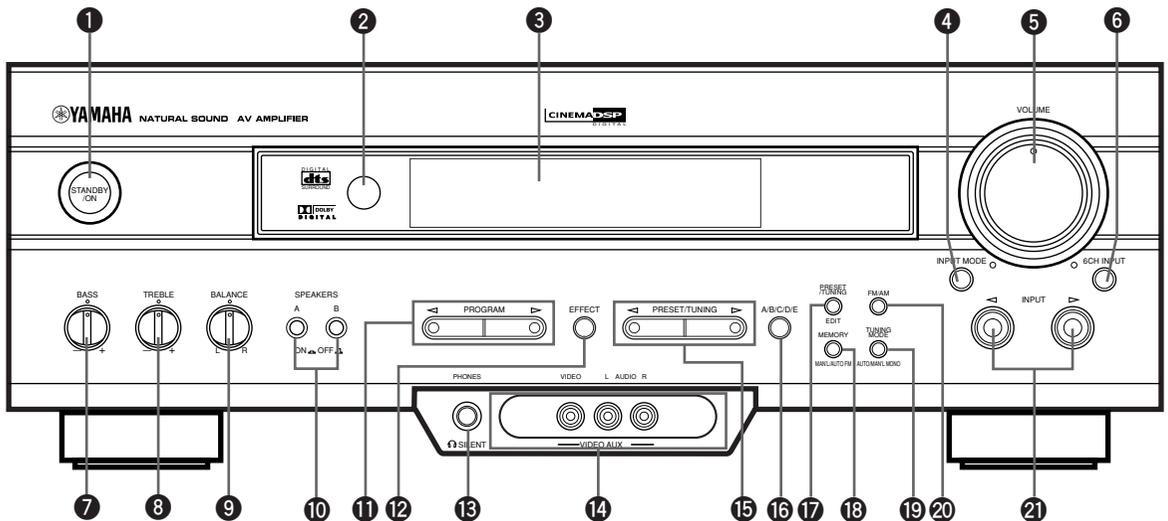
# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル

### DSP-AX520



### DSP-AX420



**①** <sup>スタンバイ</sup> <sup>オン</sup> STANDBY/ONスイッチ

本機の電源スイッチです。押すごとにオンとスタンバイ(待機)が切り替わります。電源をONにしてから数秒間は音が出ません。

**②** リモコン受光窓

付属リモコンのコントロール信号を受光します。

**③** ディスプレイ

プログラムの名称やセットメニューなどの動作状況を表示します。

**④** <sup>インプット</sup> <sup>モード</sup> INPUT MODEキー

お使いの同一機器を2種類以上の入力端子(デジタル、アナログ)に接続している場合、入力信号の優先順位(AUTO、DTS、ANALOG)を設定することができます。6CH INPUT端子の入力信号のモードは選択できません。

**⑤** <sup>ボリューム</sup> VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。REC OUTレベルには影響しません。

**⑥** <sup>チャンネル</sup> <sup>インプット</sup> 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に接続した機器からの信号を再生します。このキーで選択されたソースはINPUT< / >キー(またはリモコンのインプットセレクター)で選択されたものより優先されます。

**⑦** <sup>バス</sup> BASSコントロール

メインスピーカーL、Rの低音域を調節します。右(+)に回すと低音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

**⑧** <sup>トレブル</sup> TREBLEコントロール

メインスピーカーL、Rの高音域を調節します。右(+)に回すと高音域が強調され、左(-)に回すと減衰されます。

## メモ

● トーンコントロール(BASS、TREBLE)により、メインチャンネルを極端にブースト(増強)、またはカット(減衰)した場合、メインスピーカーとエフェクトスピーカー(センターとリア)との音のつながりが悪くなる場合があります。

**⑨** <sup>バランス</sup> BALANCEコントロール

メインL、Rチャンネルの音量バランスを調節します。中央の位置を基準にL側に回すほどR(右)側の音が小さくなり、R側に回すほどL(左)側の音が小さくなります。スピーカーの位置や、視聴するお部屋の状態にあわせて調整してください。

**⑩** <sup>スピーカー</sup> <sup>エイビー</sup> SPEAKERS A/Bスイッチ

メインスピーカーA、Bを選びます。A、B両方とも使うときはAとBを押します。

**⑪** <sup>プログラム</sup> PROGRAM < / > キー

音場プログラムを選択します。

**⑫** <sup>エフェクト</sup> EFFECTキー

音場効果をオン/オフします。オフの状態では通常のステレオ再生になり、エフェクトスピーカーからの音は出ません。

## メモ

● 入力信号がドルビーデジタルやDTSの場合にエフェクトスピーカーをオフにすると、メインスピーカーL、Rの出力レベルが調和しないことがあります。

**⑬** <sup>フォーンズ</sup> PHONES端子

ヘッドホンを接続します。深夜のプライベートリスニングの際は、ヘッドホンのご使用をお勧めします。ヘッドホン使用時はSPEAKERS A/BスイッチをOFFにしてください。

**⑭** <sup>ビデオ</sup> <sup>エイユーエックス</sup> VIDEO AUX端子

ゲーム機や8mmビデオなどを接続する予備入力端子です。

**⑮** <sup>プリセット/チューニング</sup> PRESET/TUNING < / > キー

バンド(FMまたはAM)表示の隣に“)”が点灯しているときは、1~8番のプリセット局番号を選べます。“)”が点灯していないときは選局できます。

**⑯** <sup>エイビーシーディーイー</sup> A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くとき、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

**⑰** <sup>プリセット/チューニング</sup> <sup>エディット</sup> PRESET/TUNING(EDIT)キー

PRESET/TUNING < / > キーの機能(プリセット番号の選択か選局)を切りかえます(“)”の点灯・消灯。プリセット局の入れかえをするときもこのキーを押します。

**⑱** <sup>メモリー</sup> <sup>マニュアル/オート</sup> <sup>エフエム</sup> MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キー

受信した放送局をプリセットします。3秒以上キーを押すと、オートプリセットができます。

**⑲** <sup>チューニング</sup> <sup>モード</sup> <sup>オート/マニュアル</sup> <sup>モノ</sup> TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キー

マニュアル選局(手動選局)またはオート選局(自動選局)を選びます。オート選局にする場合は、このキーを押してAUTOインジケータを点灯させます。マニュアル選局にする場合は、AUTOインジケータを消します。

**⑳** <sup>エフエム/エイエム</sup> FM/AMキー

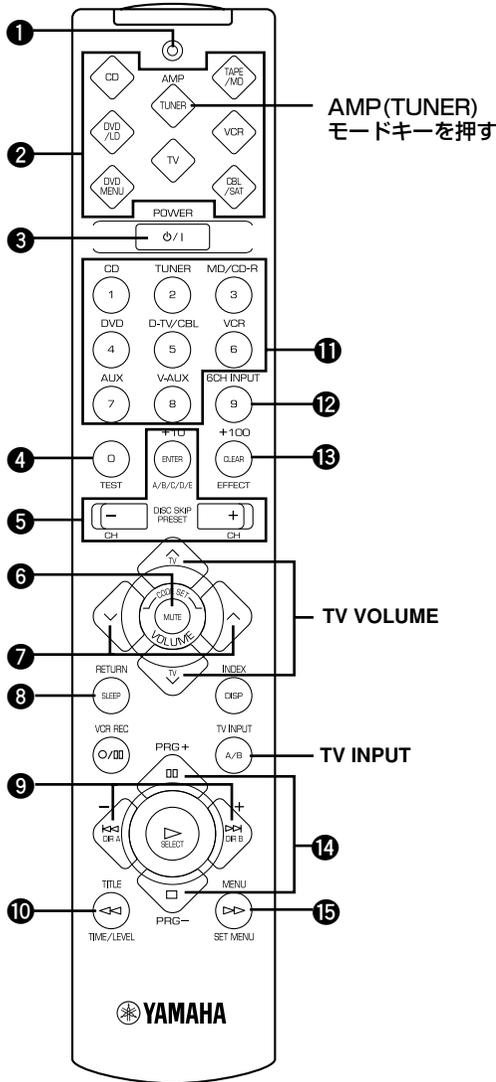
FM放送、AM放送を切り替えます。

**㉑** <sup>インプット</sup> INPUT < / > キー

再生するソース(DVD、AUX、MD/CD-R、TUNER、CD、V-AUX、VCR、D-TV/CBL)を選択します。

## リモコン

本機を操作するときのリモコン各部の名称とはたらきについて説明します。本機を操作するとき、最初にAMP (TUNER)モードキーを押してください。



## ① インジケーター

リモコンのモードキーを押したときおよび信号が送られたとき赤く点灯します。数回点滅したときは、正しく信号が送られていない可能性がありますので、もう一度キーを押し直してください。

## ② モードキー

リモコン操作したい機器を選びます。(本機に接続した機器の操作は、お手持ちの機器に合ったメーカーコードが設定されていなければできません。P.46の「メーカーコードの設定」を参照してください。)操作したい機器に対応したモードキーを押すとリモコンでその機器を操作できるようになります。

## ③ POWERキー

本機の電源をオン/スタンバイモードに切り換えます。

## ④ TESTキー

各スピーカーからテストトーンを出力します。

## ⑤ A/B/C/D/Eキー、PRESET -/+ キー

プリセットした局を選びます。

A/B/C/D/Eキー: プリセットした局のグループ(A~E)を選びます。

PRESET -/+キー: プリセットした局番(1~8)を選びます。

## ⑥ MUTEキー

本機の音を消します。解除するにはMUTEキーをもう一度押します。

## ⑦ VOLUMEキー

全体の音量を調節します。

↑: 音量を上げます。

↓: 音量を下げます。

## ⑧ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します。

## ⑨ -/+キー

セットメニューの設定、ディレイタイム、スピーカー出力の調節をします。

## ⑩ TIME/LEVELキー

ディレイタイム、スピーカー出力を調節するときを押します。

## ⑪ インプットセレクター(数字キー)

再生したい入力ソースを選びます。

CD: CDを聴く。

TUNER: FM/AM放送を聴く。

MD/CD-R: MDまたはCD-R(またはテープ)を聴く。

DVD: DVDを見る。

D-TV/CBL: テレビまたはケーブルテレビを見る。

VCR: ビデオを見る。

AUX: 予備入力端子に接続したオーディオ機器の音声を聴く。

V-AUX: ゲーム機や8mmビデオなどフロントパネルの予備入力端子に接続したビデオ機器を見る。

## ⑫ 6CH INPUT

チャンネル インプット

6CH INPUT端子に接続したAV機器を再生します。

## ⑬ EFFECTキー

エフェクト

音場効果をオン/オフします。

## ⑭ PRG+、PRG-/キー

プログラム プログラム

音場プログラムを選びます。

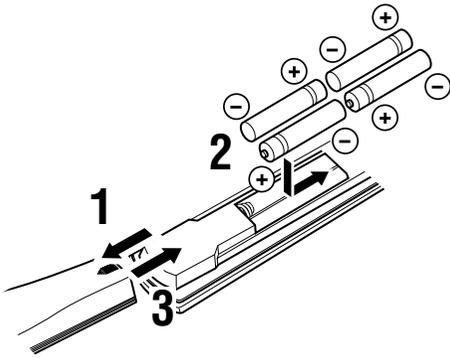
SET MENUキーを押すとメニュー項目を選べます。

## ⑮ SET MENUキー

セットメニュー

セットメニュー項目を選択するときを押します。

## リモコンの電池の入れ方



**1** リモコンの裏蓋をマークを押しながら開けます。

**2** 付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示に従って、プラス(+)とマイナス(-)の向きを間違えないように、正しく入れます。

**3** 裏蓋を閉めます。

### ■ 乾電池についてのご注意

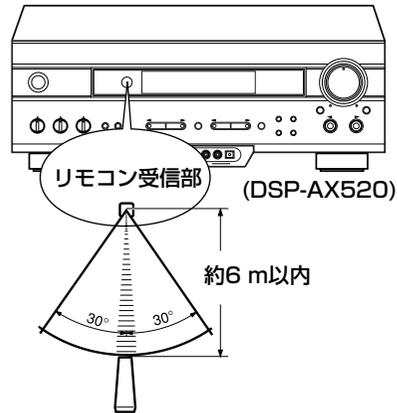
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 液漏れが起こったときは、液にふれないよう、また衣服につかないよう気をつけながら、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

### ■ 乾電池の交換

乾電池が消耗すると、リモコンの操作可能距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケータが点灯しなくなったり、インジケータが暗くなります。このような場合は全て新しい乾電池に交換してください。

電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、乾電池が消耗したままリモコンに入れておくと、メモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定しなおしてください(P.46「メーカーコードの設定」参照)。

### リモコンの使用範囲

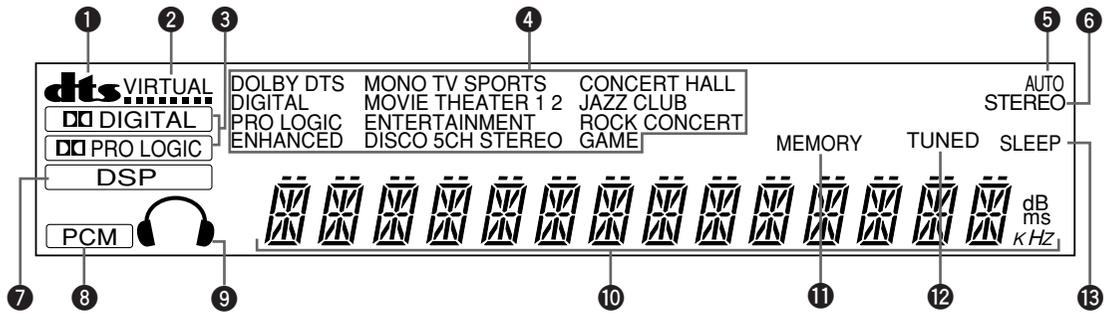


リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

### ■ リモコンの取り扱いについて

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  - ストープのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
  - ほこりの多いところ。
  - 極端に寒いところ。

## ディスプレイ

**① dts インジケータ**

DTSデコーダーが動作すると点灯します。

**② VIRTUAL<sup>バーチャル</sup>インジケータ**

バーチャルシネマDSP時に点灯します。

**③ DIGITAL、PRO LOGIC インジケータ**

本機に入力されたドルビーデジタル信号によって点灯します。ドルビーデジタルデコーダーが動作すると「DIGITAL」が、ドルビープロロジックデコーダーが動作すると「PRO LOGIC」が点灯します。

**④ 音場プログラムインジケータ**

音場プログラムを選択すると各々のインジケータが点灯します。

**⑤ AUTO<sup>オート</sup>インジケータ**

チューナーの選局モードをオートにすると点灯します。

**⑥ STEREO<sup>ステレオ</sup>インジケータ**

AUTOインジケータが点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

**⑦ DSP インジケータ**

音場プログラムを選択すると点灯します。

**⑧ PCM インジケータ**

PCM信号を入力すると点灯します。

**⑨ ヘッドホンインジケータ**

PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

**⑩ 音場プログラム名/設定値表**

通常は選択した入力ソース名が表示されています。また、スピーカーレベルやセットメニューなどのさまざまな設定値を、各々の操作に応じて表示します。なお、FM/AM放送を受信するときには放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

**⑪ MEMORY<sup>メモリー</sup>インジケータ**

放送局をプリセットするとき、MEMORYキーを3秒以上押しと点滅します。

**⑫ TUNED<sup>チューンド</sup>インジケータ**

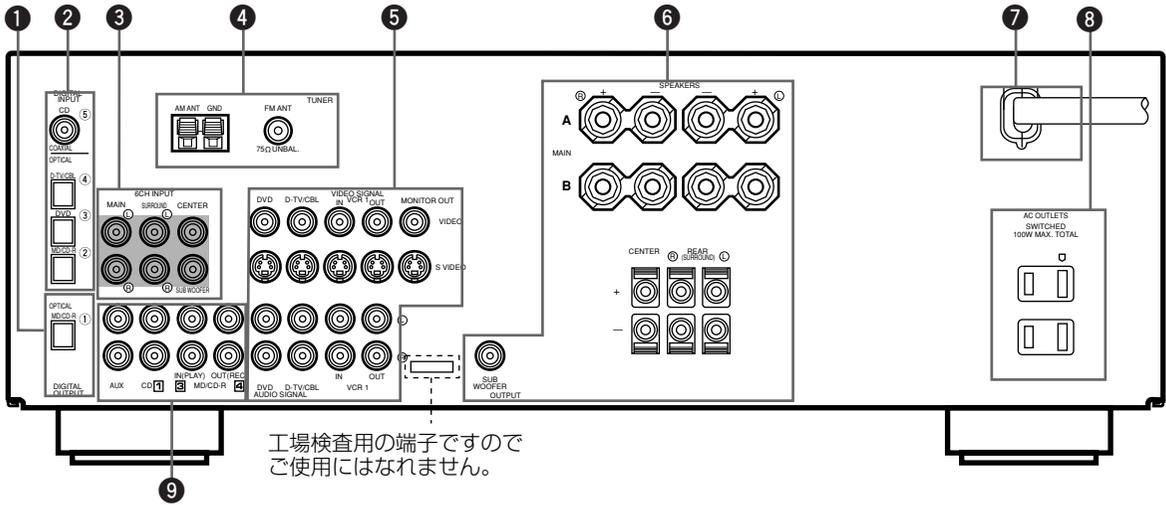
放送局を選局したときに点灯します。

**⑬ SLEEP<sup>スリープ</sup>インジケータ**

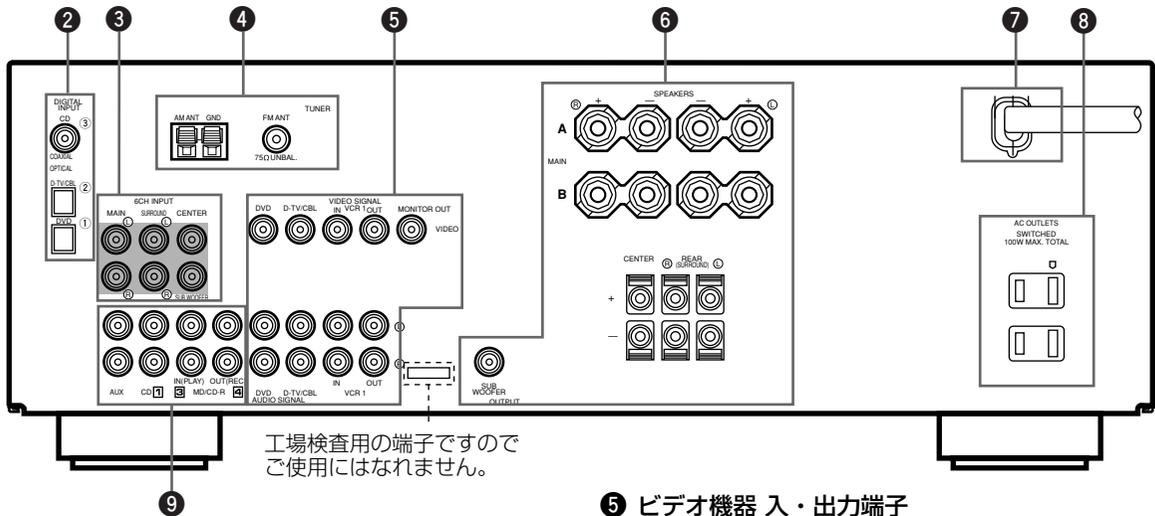
スリープタイマーの動作中に点灯します。

## リアパネル

## DSP-AX520



## DSP-AX420



## ① デジタル出力端子

デジタル出力端子  
OPTICAL (光) 端子 1

## DSP-AX520のみ

## ② デジタル入力端子

デジタル入力端子  
OPTICAL (光) 端子 3

デジタル入力端子  
COAXIAL (同軸) 端子 1

## DSP-AX420

デジタル入力端子  
OPTICAL (光) 端子 2

デジタル入力端子  
COAXIAL (同軸) 端子 1

## ③ 6CH INPUT端子

外部デコーダの出力をつなぎます。  
接続についてはP.11の「外部デコーダの接続」を参照してください。

## ④ アンテナ端子

接続についてはP.26の「アンテナの接続」を参照してください。

## ⑤ ビデオ機器 入・出力端子

ビデオ機器 入・出力端子  
VIDEO端子 入力 3 出力 2  
オーディオ信号端子 入力 3 出力 1  
S VIDEO端子 DSP-AX520のみ 入力 3 出力 2  
接続についてはP.12とP.13の「ビデオ機器の接続」を参照してください。

## ⑥ スピーカー端子

接続についてはP.14とP.15の「スピーカーの接続」を参照してください。

## ⑦ 電源コード

P.16の「電源コードの接続」を参照してください。

## ⑧ AC OUTLETS SWITCHED (電源供給コンセント)

P.16の「電源コードの接続」を参照してください。

## ⑨ オーディオ機器 入・出力端子

オーディオ機器 入・出力端子 入力 3 出力 1  
接続についてはP.10とP.11の「オーディオ機器の接続」を参照してください。



# スピーカーの設置

## 使用するスピーカー

本機はメインスピーカーL、R(2本)、センタースピーカー(1本)、リアスピーカーL、R(2本)の5スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、同一メーカーの音色の揃ったスピーカーの使用をお勧めします。

メインスピーカーはメインチャンネルの音(通常のステレオ音声)に加えて効果音を出力し、リアスピーカーはサラウンドと効果音を、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。センタースピーカーを使用しなくても十分な効果は得られますが、5スピーカーシステムにおいて、最も良い音響効果が得られません。

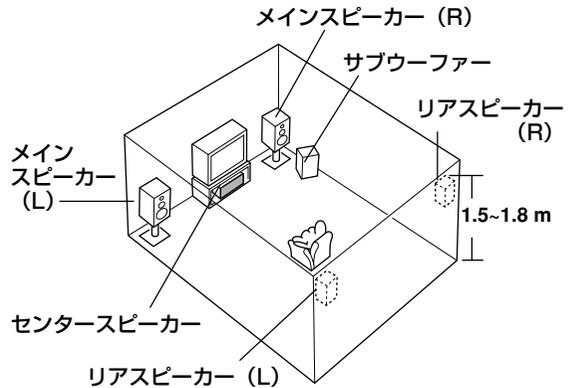
メインスピーカーはできるだけ本機からの最大出力に対応できるものをお使いください。その他のスピーカーはメインスピーカーと必ずしも同等である必要はありませんが、再生するソフトをより効果的に表現するためには、メインスピーカーと同等の高品質のスピーカーをご使用ください。

### ■ サブウーファーの設置

サブウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTSソフトのLFE信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力にはヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をお勧めします。

## スピーカーの設置場所

下図を参考の上、スピーカーを設置してください。



### ■ メインスピーカー

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、左右のスピーカーとモニター(テレビ)の距離を等しく設置します。

### ■ リアスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

### ■ センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。モニター(テレビ)を設置している場合は、モニター(テレビ)画面とスピーカーの前面を揃え、モニター(テレビ)の上や下など、できるだけモニター(テレビ)画面に近いところの中央に設置します。

### メモ

- センタースピーカーをご使用にならないときは、センターチャンネルからの音声をメインスピーカーL、Rに振り分けることができます。この場合、セットメニューの「CENTER SP」をNONに設定してください。

### ■ サブウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試してください。

### 注意!

スピーカーは防磁タイプをお使いください。防磁タイプのスピーカーをご使用になっても、モニター(テレビ)の画面が乱れるなどの影響が出る場合はスピーカーをモニター(テレビ)から離して設置してください。



# 接続のしかた

## 正しい接続のために

### 注意!

接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。

- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどと接続する場合は、各機器と本機と同じ番号(1、3、4など)のついた端子を接続してください。
- オーディオ/ビデオ機器の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。  
入/出力端子の色と接続に用いるピンプラグコードは次のように分類されます。

|   |                   |  |
|---|-------------------|--|
| 黄 | 映像信号接続コード(コンポジット) |  |
| 白 | アナログ音声信号接続コード(左)  |  |
| 赤 | アナログ音声信号接続コード(右)  |  |
| — | 同軸デジタル接続コード       |  |

- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

## オーディオ機器の接続

## ■ デジタル端子の接続

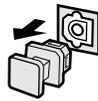
本機は、アナログ端子の他にデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIALコアキシャル[同軸]/OPTICALオプティカル[光])を装備しています。(デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS兼用です。)COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。



- デジタル入力端子の入力機器の設定をセットメニュー「3 I/O ASSIGN」で変更することもできます。
- **DSP-AX520のみ**  
サンプリング周波数96kHzのDVDディスクにも対応しています。
- **DSP-AX420のみ**  
本機ではデジタル録音ができないため、デジタル端子だけでなくアナログ端子にも接続してください。

## 防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)



## メモ

- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

## ■ CDプレーヤーの接続



- CDプレーヤーのCOAXIALデジタル出力端子と、本機のCOAXIAL CD端子をつなぎます。
- CDのアナログ端子とデジタル端子に同時に信号が入ると、デジタル端子の入力信号が優先されます。

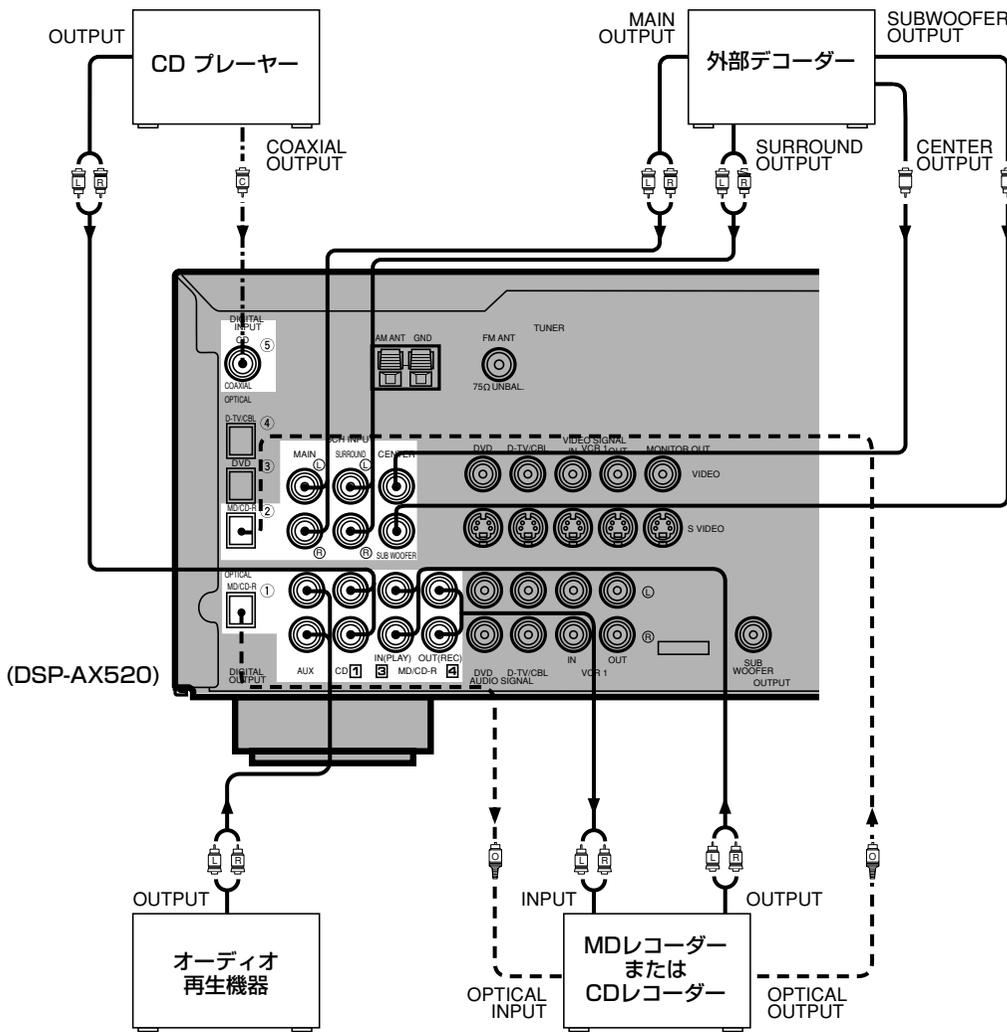
## ■ MDレコーダー、CDレコーダーまたはテープデッキの接続



- **DSP-AX520のみ**  
録音機器をアナログとデジタルの入出力端子に接続した場合は、デジタル信号が優先されます。
- **DSP-AX420のみ**  
MDまたはCDレコーダーのアナログ入出力端子と本機のAUDIO端子をつなぎます。

## メモ

- 本機の使用中は接続してある録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。
- **DSP-AX520のみ**  
デジタルOUTとアナログOUT(REC)は独立しているため、アナログ信号はアナログ端子に、デジタル信号はデジタル端子にのみ出力されます。



- 信号の流れ
- (L) アナログ音声左(L)接続コード
- (R) アナログ音声右(R)接続コード
- - - 光デジタル接続コード
- · - · 同軸デジタル接続コード

### 外部デコーダーの接続

6CH INPUT端子に6(5.1)チャンネル外部デコーダー、プロセッサーやプリアンプなどを接続することができます。またハイビジョンTVやMUSEデコーダーの3.1チャンネル音声をつなぐこともできます。

外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

### メモ

- 6CH INPUT端子から入力した信号には、下記は適応されません。
  - 本機の音場効果
  - スピーカーモードの設定 (セットメニューの「1 SPEAKER SET(MAIN LVLを除く)」)
  - エフェクトスピーカーのレベル調節

## ビデオ機器の接続

### ■ オーディオ端子について

DVDプレーヤー、ビデオデッキ、デジタルTV／ケーブルテレビなどの音声出力を本機のAUDIO端子につなぎます。

### ■ ビデオ端子について

DVDプレーヤー、ビデオデッキ、デジタルTV／ケーブルテレビなどの映像出力を本機のVIDEO端子につなぎます。

### ■ Sビデオ端子について **DSP-AX520のみ**

本機にはSビデオ端子が備えられています。S VIDEO信号は、ビデオ信号(コンポジット信号)の輝度を表わす信号(Y信号)と、色を表わす信号(C信号)に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。

お使いのビデオ機器のSビデオ出力を本機に接続できます。Sビデオ出力をS VIDEO端子に接続してください。



- 本機では、S VIDEO端子とコンポジットのVIDEO端子間は独立しています。VIDEO端子から入った信号はVIDEO端子に、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に出力されます。
- S VIDEO端子に接続している場合、VIDEO端子に接続する必要はありません。両方に接続している場合はSビデオ信号が優先されます。
- 本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

### メモ

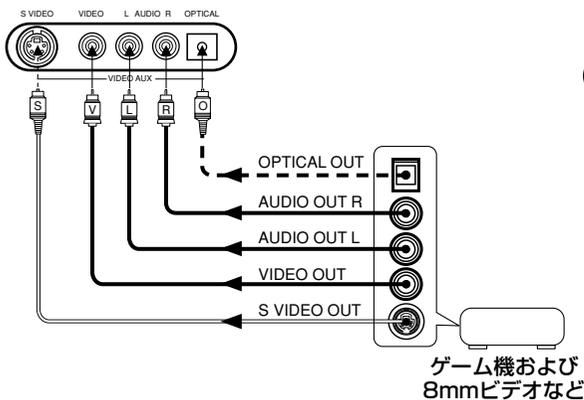
- S VIDEO端子の接続には専用のビデオケーブル(市販)を用意してください。

ビデオ エイユーエックス

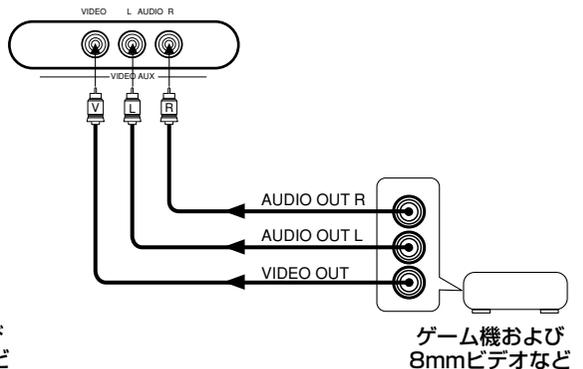
### ■ VIDEO AUX端子(フロントパネル)

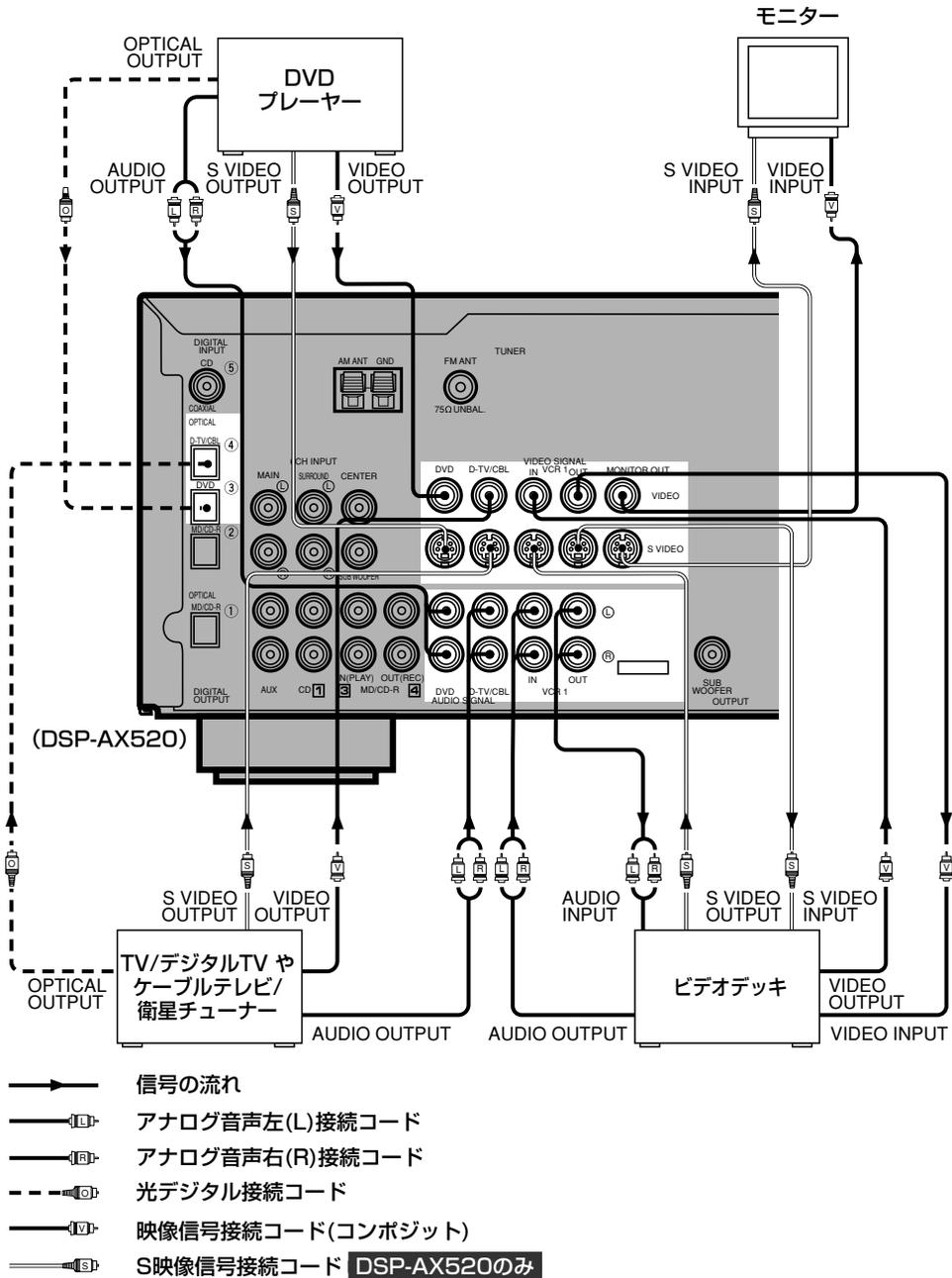
ゲーム機や8mmビデオなどを接続する予備入力端子です。

#### DSP-AX520



#### DSP-AX420





**LDプレーヤーをご使用になるときは**

LDプレーヤーの出力を、DVD端子に接続します。

LDプレーヤーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のOPTICAL DVD端子とつながります。アナログ端子の場合は、アナログのDVD端子につながります。ドルビーデジタル信号(AC-3)を出力する「RF OUTPUT端子」がある場合は、別売(市販)のRFデモジュレーターを使用し、OPTICAL DVD端子につながります。

DVDプレーヤーとLDプレーヤーの両方を接続する場合は、LDプレーヤーをD-TV/CBL端子などのデジタル入力端子に、またはD-TV/CBL、VCR 1のアナログ入力端子につなぐことができます。

詳しい接続と操作についてはLDプレーヤーの取扱説明書を参照してください。

なお、LDプレーヤーのメーカーコードをDVD/LDモードに設定すると本機のリモコンで操作ができます。

ご使用の前に

## スピーカーの接続

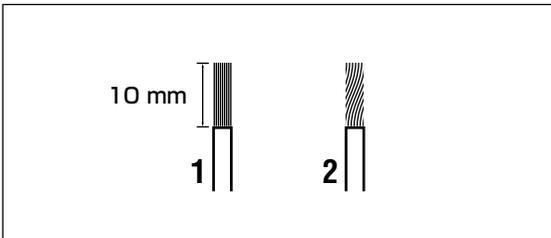
接続する際に、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“+”(赤)、“-”(黒)を確認して正しく接続してください。極性(+、-)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

### 注意!

- スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて自動的に電源が切れますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは $6\Omega$ 以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき $12\Omega$ 以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続後、ご使用になるスピーカーの数や性能に応じてセットメニューのスピーカーモードを設定してください。

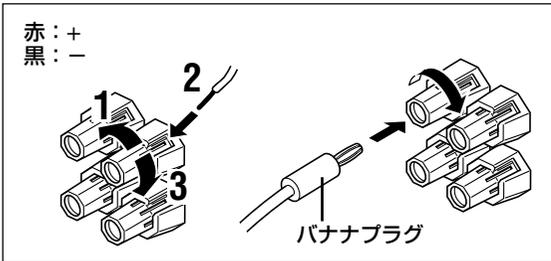
### ■ スピーカーコード



一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

- 1** スピーカーコード先端の絶縁部(被覆)を10mm位はがします。
- 2** ショートを防ぐために、芯線をしっかりとよじます。

### ■ メインスピーカー端子の接続

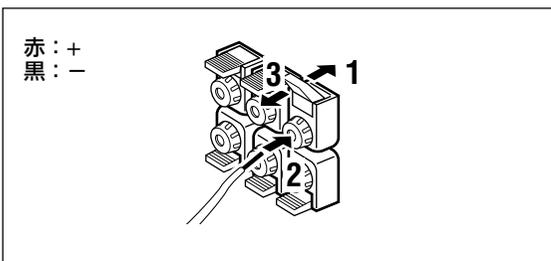


- 1** スピーカー端子を左に回してゆるめます。
- 2** スピーカー端子のわきの穴にスピーカーコードの芯線を差し込みます。
- 3** スピーカー端子を右に回して締め付けてください。



- 市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

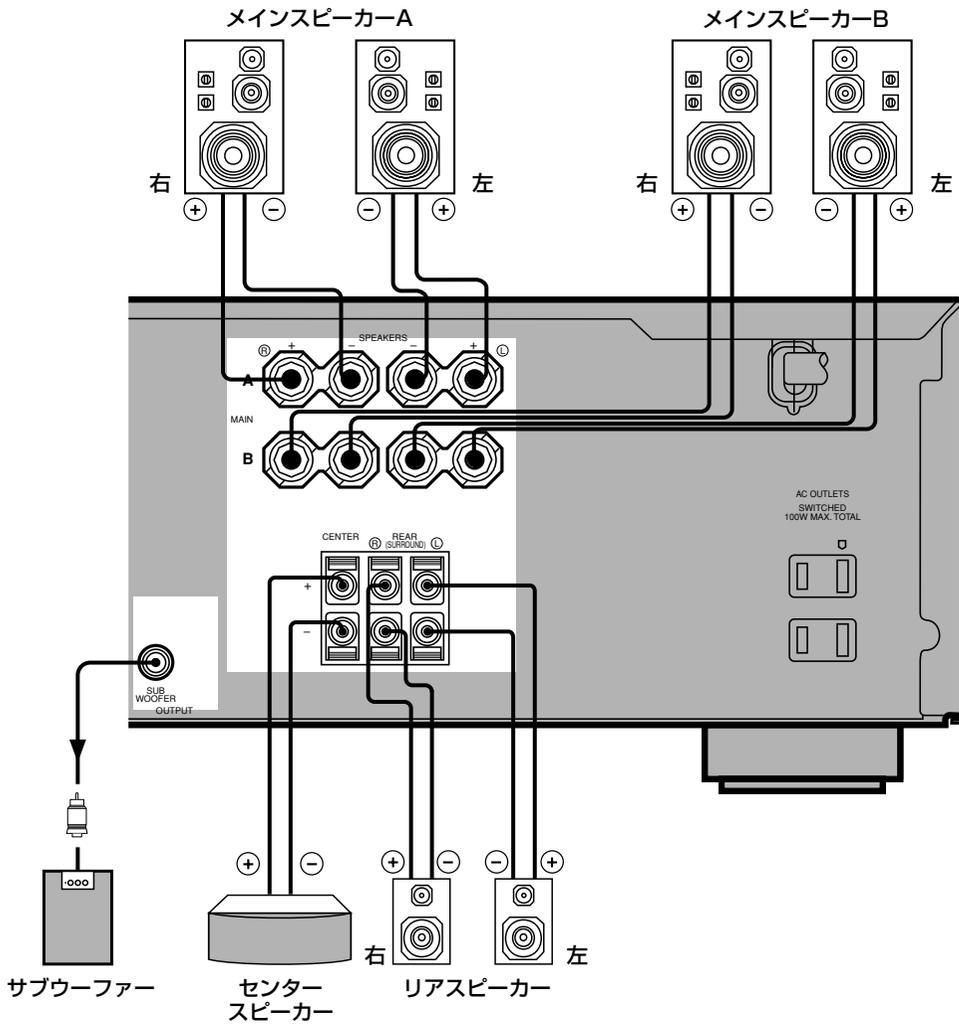
### ■ リア、センタースピーカー端子の接続



- 1** タブを開けます。
- 2** スピーカー端子の穴にスピーカーコードの芯線を差し込みます。
- 3** タブを戻してコードを固定します。



- 市販のバナナプラグを使用する場合は、タブを開けた状態で差し込んでください。



**■ MAIN SPEAKERS端子**

2組のスピーカーまで接続することができます。1組のスピーカーをご使用の場合は、MAIN AまたはB端子のどちらかに接続してください。

**■ REAR SPEAKERS端子**

リアスピーカーを接続します。

**■ CENTER SPEAKER端子**

センタースピーカーを接続します。

**■ サブウーファースの接続**

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。

メイン、センターおよびリアチャンネルからの低音信号(90Hz以下)はこの端子に送られます。ドルビーデジタルやDTSデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

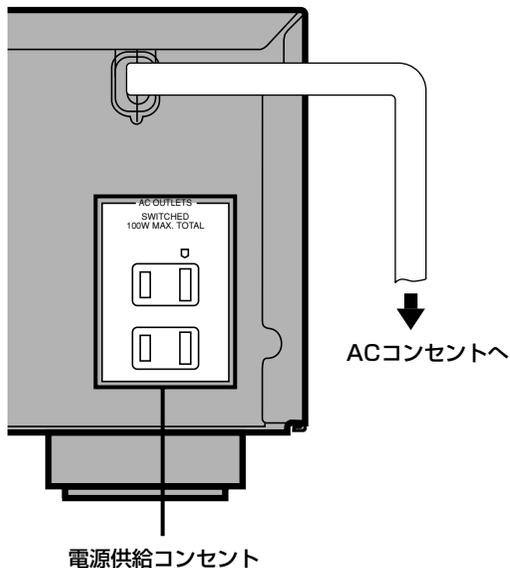
**メモ**

- SUBWOOFER端子からの出力レベルは本機のリモコンにて設定できます(P.38「ディレイタイムとエフェクトスピーカーのレベル調節」参照)が、お使いのサブウーファースの取扱説明書も参照してSUBWOOFERの音量レベルを設定してください。
- セットメニュー「1 SPEAKER SET」、[LFE LEVEL(5 DOLBY D. SET)]、[6 DTS SET]の設定によってはサブウーファースから音声が出力されない場合があります。

## 電源コードの接続

すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

### ■ AC OUTLETS SWITCHED (電源供給コンセント)



外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機の電源スイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器に、電源を供給することができます。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。



## スピーカーモードの設定

本機は5.1チャンネル対応のメインアンプを備えています。

最大6本のスピーカーを使用することができますが、ご使用になられるスピーカーの数や大きさに合わせた最良の音場効果を得るためにスピーカーモードを設定することができます。

ご使用の前にP.33セットメニューの「1 SPEAKER SET(スピーカーモードの設定)」にて下記の5項目のスピーカーモードを設定してください。

### SPEAKER SETの設定内容

| 項目   | 設定内容                              | 可変範囲<br>(太字は初期設定)        |
|--|-----------------------------------|--------------------------|
| <small>センタースピーカー</small><br><b>CENTER SP</b>     | センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。  | <b>LRG</b> /SML/NON      |
| <small>メインスピーカー</small><br><b>MAIN SP</b>        | メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。      | <b>LARGE</b> /SMALL      |
| <small>リアエルアールスピーカー</small><br><b>REAR LR SP</b> | リアスピーカーL、Rの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。 | <b>LRG</b> /SML/NON      |
| <small>バスアウト</small><br><b>BASS OUT</b>          | LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。   | SWFR/ <b>MAIN</b> /BOTH  |
| <small>メインレベル</small><br><b>MAIN LVL</b>         | メインスピーカーレベルを選択します。                | <b>NORM(ノーマル)</b> /-10dB |



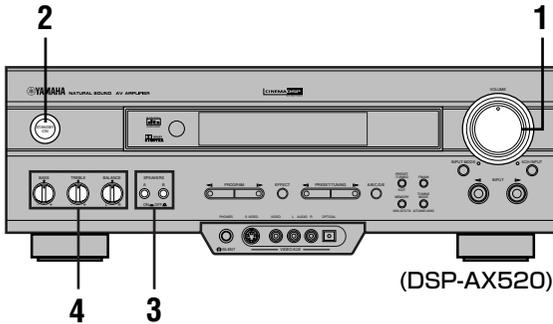
# スピーカーのレベル調節

テストトーンを使ってリスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジックデコーダー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーを最高の環境で使用するために重要です。

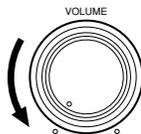
## メモ

- ヘッドホンをつないでいるとテストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。

## 調節の前に行うこと



- 1 VOLUMEコントロールを最小に合わせます。**

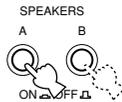


- 2 電源を入れます。**

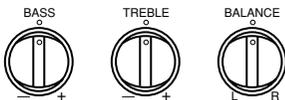


- 3 SPEAKERS AもしくはBスイッチを押して使用するメインスピーカーを選択します。**

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押しします。

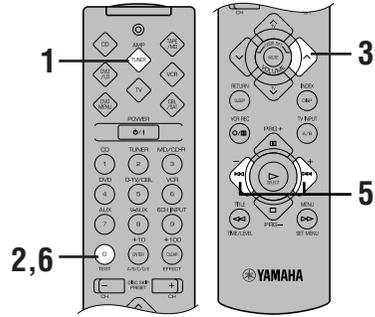


- 4 本体のトーンコントロール(BASS, TREBLE)と、BALANCEコントロールを中央にセットします。**



## テストトーンによる調節

調節は必ずリスニングポジションで行います。



- 1 AMP(TUNER)モードキーを押します。**



- 2 TESTキーを押します。**

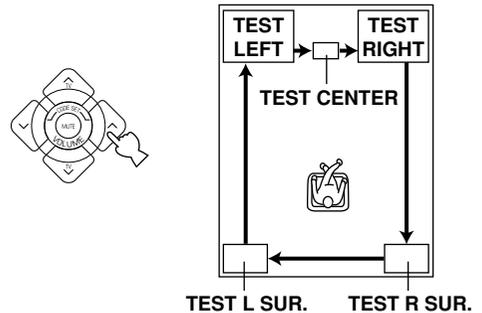
ディスプレイに“TEST LEFT”が表示されます。



→ TEST LEFT

- 3 テストトーンが聴こえるように音量を調節します。**

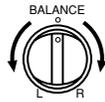
テストトーンは、LEFT(メインスピーカー)→CENTER(センタースピーカー)→RIGHT(メインスピーカー)→R. SUR.(リアスピーカー)→L. SUR.(リアスピーカー)→…の順で循環し、それぞれ約2秒間ずつ聴こえます。



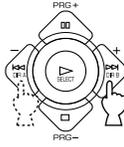
## メモ

- テストトーンが聴こえないときは、いったん音量を下げ、本機の電源を切ってからスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- センタースピーカーのテストトーンが聴こえないときは、セットメニューの「CENTER SP」の設定を確認してください。

- 4** 本体のBALANCEコントロールで左右メインスピーカーの音量レベルが同じになるよう調節してください。



- 5** 調節したいスピーカーからテストトーンが出力されている間に、-または+キーを押して、スピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように調節します。



- 調節中はテストトーンはそのスピーカーに固定されます。

- 6** 調節が終わったら、TESTキーを押します。



テストトーンが消えます。

**メモ**

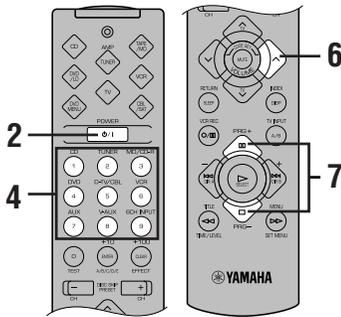
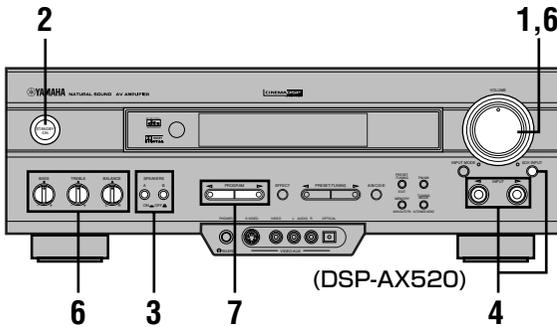
- セットメニューの「CENTER SP」がNONになっているときは、手順5でセンタースピーカーの調節はできません。センターチャンネルの音は左右メインスピーカーから出力されます。
- セットメニューの「REAR LR SP」がNONになっているときは、手順5でリアスピーカーL、Rの調節はできません。このとき、リアスピーカーL、Rへのテストトーン出力はスキップされ、LEFT→CENTER→RIGHT→LEFT→…の順で循環します。
- サブウーファーのスピーカー調整についてはP.38「ディレイタイムとエフェクトスピーカーのレベル調節」を参照ください。
- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーレベルがお好みに合わないことがあります。その場合は実際の再生音を聴きながらお好みに合わせて調節することができます(P.38「ディレイタイムとエフェクトスピーカーのレベル調節」参照)。



- スピーカーレベルを一度調節すれば、スピーカーを変えたりしないかぎり再度調節する必要はありません。実際に視聴するときは、全体の音量をVOLUMEキーで調節するだけでお楽しみいただけます。
- エフェクトスピーカー(センターおよびリアL、R)の音量レベルを+10dBまで上げてメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「MAIN LVL」を-10dBに設定します。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。

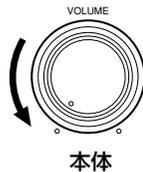
リモコンをご使用の場合はAMP(TUNER)モードキーを押してください。

**4** INPUT ◀/▶ キー(またはインプットセクター)を押して再生するソースを選びます。入カソース名がディスプレイに表示されます。

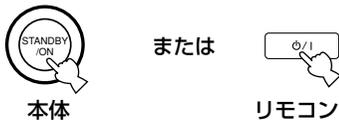


- CD:                      CDを聴く。
- TUNER:                AM/FMステレオ放送を聴く。
- MD/CD-R:            MD、CD-Rまたはテープを聴く。
- DVD:                   DVDを見る。
- D-TV/CBL:            テレビまたはデジタルテレビ放送、衛星放送またはケーブルテレビ放送を見る。
- VCR:                   ビデオを見る。
- AUX:                   AUX端子につないだオーディオ機器を再生する。
- V-AUX:                フロントパネルのVIDEO AUX端子につないだAV機器を再生する。

**1** VOLUMEコントロールを最小に合わせます。

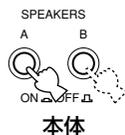


**2** STANDBY/ONスイッチ(またはPOWERキー)を押して電源を入れます。ビデオソース再生時はモニターの電源も入れます。

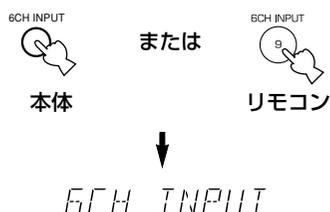


**3** SPEAKERS AもしくはBスイッチを押して使用するメインスピーカーを選択します。

2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。



6CH INPUT端子に接続したソースを選択する  
6CH INPUTキーを押して、“6CH INPUT”をディスプレイに表示させます。



### メモ

- “6CH INPUT”がディスプレイに表示されている場合、ほかのソースを再生することはできません。INPUT </> キー(またはインプットセクター)を使って別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押してディスプレイから“6CH INPUT”の表示を消してください。
- 映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。

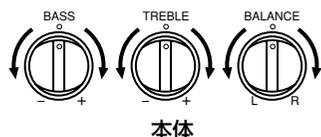
**5** 機器の再生(または放送の受信)を始めます。  
再生する機器の取扱説明書を参照してください。

**6** 音量を調節します。



必要に応じてBASS、TREBLE、BALANCEも調節してください。これらの調節はメインスピーカーから出力される音のみに有効です。

- BASSコントロールは低音を調整します。
- TREBLEコントロールは高音を調整します。
- BALANCEコントロールは左右メインスピーカーの音量バランスを調整します。



### メモ

- REC OUT端子と接続している機器の電源が切れている場合、再生音が歪んだり、音量が下がることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてご使用ください。

**7** 音場プログラムを選択します。

音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選択します。



### ■ 消音する(音をミュートする)

一時的に音を消したいときにご使用ください。

リモコンのMUTEキーを押します。

前の音量に戻すには、もう一度MUTEキーを押してください。



- VOLUMEキーや音場プログラムキーなどを押してもミュートは解除できません。
- 消音中(ミュート中)に、ディスプレイに“MUTE ON”が表示されます。

### ■ 本機の使用を終了するとき

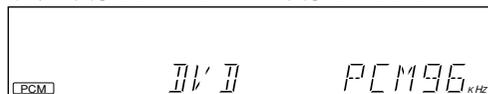
STANDBY/ONスイッチ(またはPOWERキー)を押して、本機の電源をスタンバイモードにしてください。

### ■ デジタル信号に関するご注意

#### DSP-AX520のみ

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzのデジタル信号にも対応しています。これを利用するには、96kHzデジタル信号で作られたソースとこれに対応したプレーヤーが必要です。詳しくはプレーヤーの取扱説明書を参照してください。96kHzデジタル信号を入力する場合、次の点にご注意ください。

1. 以下の表示がディスプレイに表示されます。



2. 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。

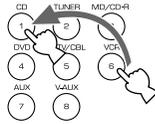
### メモ

- セットメニュー「MAIN SP」がSMALLで「BASS OUT」がSWFRに設定されている場合、または「BASS OUT」がBOTHに設定されている場合、サブウーファーからも音が出ます。
3. P.38で説明されているスピーカー出力レベル調節(サブウーファーレベルを除く)ができなくなります。

## ■ BGV(バックグラウンドビデオ)機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンのインプットセクターで、オーディオ系ソースを選択します。BGV機能はフロントパネルのINPUT < / > キーではできません。



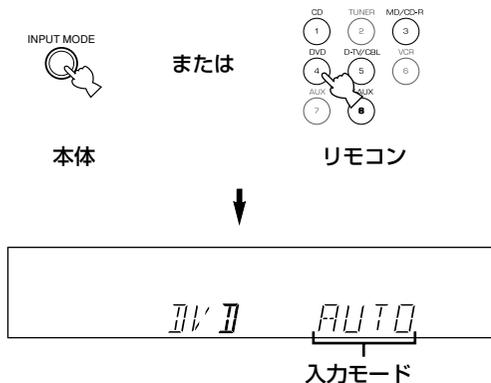
リモコン

## 入力モードと表示

リモコンをご使用の場合は、AMP(TUNER)モードキーを押してください。

本機には、デジタル(同軸、光)、アナログなど各種の入力端子が付いています。お使いの同一機器を2種類以上(デジタル、アナログ)の入力端子に接続している場合、入力信号の優先順位を設定することができます。

希望する入力モードが本体ディスプレイに表示されるまで、INPUT MODEキー(または入力ソースを選択するために押したリモコンのインプットセクター)を繰り返し押してください。



- AUTO: 次の順序で入力信号が自動的に選択されます。  
 1)ドルビーデジタルまたはDTS信号  
 2)デジタル(PCM)信号  
 3)アナログ信号
- DTS: このモードでは、別の信号が同時に入力されてもDTS信号に固定されます。
- ANALOG(ANLG): アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

## メモ

- OPTICAL(光)入力端子とCOAXIAL(同軸)入力端子に同時にデジタル信号が入力された場合、COAXIAL(同軸)入力端子からのデジタル信号が優先されます。
- 入力モードがAUTOの場合、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、本機は自動的にデコーダーを選択して5.1チャンネルソースを再生します。
- 以下の場合、一部のLDおよびDVDプレーヤーで音声出力が遮断されることがあります:  
 入力モードがAUTOに設定されている状態で、ドルビーデジタルまたはDTSソースを再生中にサーチ(早送り)をして再び再生を始めると、音声少し遅れて出力されます。
- 入力モードがAUTOの状態デジタル録音されていないLDを再生する場合、プレーヤーによっては音声とぎれたり再生されないことがあります。この場合は入力モードをANALOGに設定してお使いください。

## ■ dts-CD/LDの再生に関する注意

- プレーヤーのデジタル出力信号に何らかの処理(音量レベル可変処理)がされている場合、DTS信号として認識されないため、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTSソースを再生することはできません。
- DTSソースを再生するには、ソースをデジタル入力端子に接続し、必ず入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、ノイズが出ることがあります。
- DTSソースを再生中に、入力モードをANALOGに切り換えた場合、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTSソースを再生する場合には：
  - 本機はDTS信号を検知すると自動的に“DTSモード(“**dts**”インジケータ点灯)”になります。DTSソースの再生が終了したとき、“**dts**”インジケータが点滅することがあります。このインジケータが点滅している間は、DTSソースしか再生することができません。すぐに通常のPCMソースを再生したい場合は、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号が途切れると、“**dts**”インジケータが点滅することがあります。この状態が数十秒以上続くと、自動的に“DTSモード”からデジタル(PCM)信号入力に切り換わり、“**dts**”インジケータは消えます。

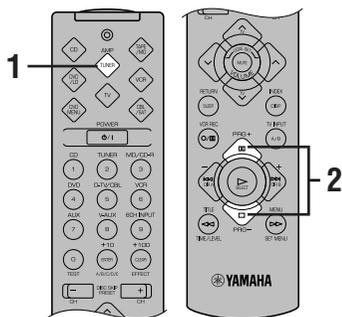
## 音場プログラムの選択

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つシネマDSP音場プログラムを内蔵しています。再生するときに好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各プログラムについてはP.48「音場プログラム」を参照してください。



- 音場効果がONになっていることを確認してください(P.25参照)。

### ■ リモコンで操作するとき

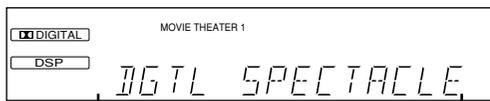
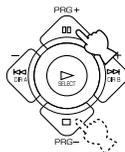


- 1 リモコンのAMP(TUNER)モードキーを押します。



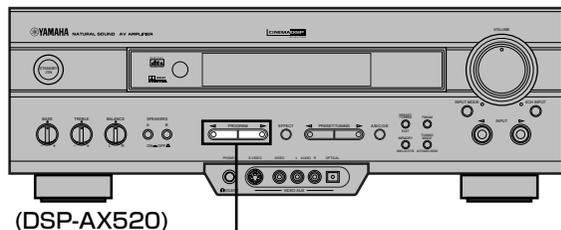
- 2 PRG+またはPRG-キーでお好みの音場プログラムを選びます。

選択された音場プログラム名が数秒間表示され、音場プログラムインジケータが点灯します。



音場プログラム名

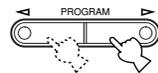
### ■ 本体で操作するとき



(DSP-AX520)

PROGRAM ◀ / ▶

PROGRAM ◀ / ▶キーでお好みの音場プログラムを選びます。



選択された音場プログラム名が数秒間表示され、音場プログラムインジケータが点灯します。



- 必要に応じてディレイタイムと各スピーカーの出力レベルを調節できます(P.38参照)。

### メモ

- 音場プログラムはプログラム名ではなく、自分のリスニングルームの状況やお好みに合わせて選択してください。リスニングルームの音響効果は音場再生に影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内の反射音を最小限に抑えてください。
- 入力ソースを選択すると、本機は自動的にその入力ソースで最後に使用された音場プログラムを選択します。
- 本機をスタンバイモードにすると、今まで再生していたソースと音場プログラムがメモリーされ、電源をONにしたとき自動的に選択されます。
- 入力モードがAUTOの場合に、ドルビーデジタルまたはDTS信号が入力されると、音場プログラム(No.7~9)は入力ソースに対応したプログラムが自動的に選択されます。
- モノラルソースをPRO LOGIC/NORMALまたはPRO LOGIC/ENHANCED音場で再生した場合は、センタースピーカーからのみ音声が出力されます。メインスピーカーとリアスピーカーからは出力されません。ただし、セットメニューの「CENTER SP」がNONIに設定されている場合は、センターチャンネルの音声メインスピーカーから出力されます。
- 6CH INPUT端子に接続されているソースを再生した場合は、本機の音場プログラムは使用できません。
- **DSP-AX520のみ**

サンプリング周波数96kHzデジタル信号が入力されている場合は、音場プログラムを選択することができません。その場合、音声は通常の2チャンネルステレオとして再生されます。

## ■ バーチャルシネマDSPとサイレントシアター

### バーチャルシネマDSP

リアスピーカーがなくても全ての音場プログラムを楽しむのがバーチャルシネマDSPです。ヤマハ独自の技術によって、仮想的なスピーカーを生成していますから自然なサラウンド再生が得られます。

セットメニューの「REAR LR SP」をNONに設定すると、選択された音場プログラムがバーチャルシネマDSPモードに変更され、メインスピーカー(L,R)によってバーチャルシネマDSPが再生されます。

### メモ

- 以下の場合にはセットメニュー「REAR LR SP」がNONに設定されていてもバーチャルシネマDSPにはなりません。
  - 5CH STEREO、PRO LOGIC/NORMAL、DOLBY DIGITAL/NORMAL、DTS/NORMAL音場プログラムを選択している時
  - EFFECTがOFFの時
  - 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している時
  - テストトーンを使用している時
  - ヘッドホンを接続しているとき(ヘッドホンからはサイレントシアターが再生されます)
  - **DSP-AX520のみ**  
デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの時

### サイレントシアター

ヘッドホンで全ての音場プログラムをお楽しみいただけます。実際にスピーカーを設置してあるかのような迫力のあるサラウンド再生を堪能できます。

EFFECTキーを押して音場効果がオンになっている時に、ヘッドホンをPHONES端子に接続すると、サイレントシアターを聴くことができます。(音場効果がオフの状態では通常のステレオ再生になります。)

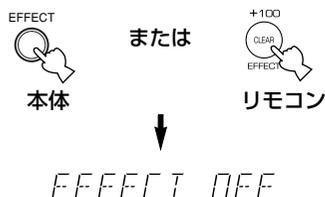
### メモ

- 以下の場合には音場効果がオンに設定されていてもサイレントシアターにはなりません。
  - **DSP-AX520のみ**  
デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの時

## 通常のステレオ再生

EFFECTキーを押して“EFFECT OFF”にすると、通常のステレオ再生になります。

EFFECTキーをもう一度押すと音場効果がONになります。



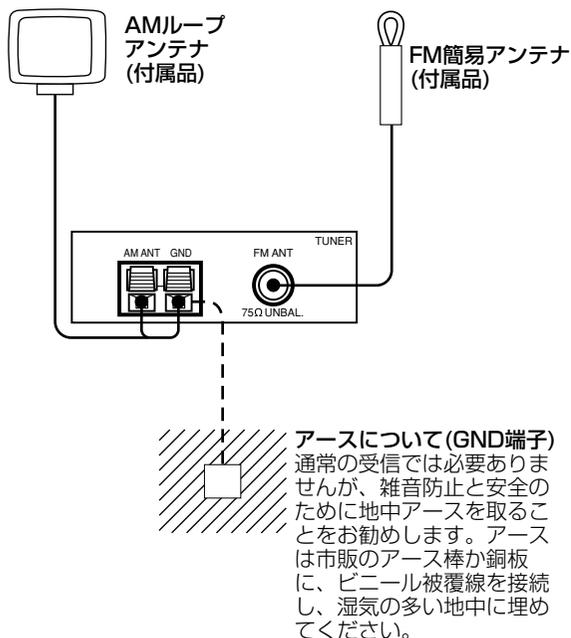
### メモ

- EFFECT OFFの時は、センターおよびリアスピーカーから音は出ません。
- ドルビーデジタル、DTS再生時にEFFECT OFFにすると、ダイナミックレンジが圧縮され、またセンターおよびリアチャンネルの信号はメインスピーカーL,Rから出力されます。
- ドルビーデジタルソフトによっては、セットメニュー「D-RANGE (5 DOLBY D. SET)」をMINに設定した時や、EFFECT OFF時に音量が極端に下がる場合があります。このような場合は音場効果をONにしてご使用ください。

## アンテナの接続

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。

各々のアンテナを端子に正しく接続してください。



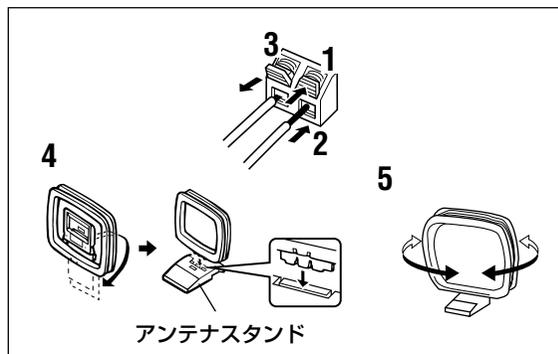
### ■ FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

#### メモ

- FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM簡易アンテナは接続しないでください。

### ■ AMループアンテナの組立と接続



**1** AM ANT端子とGND端子のレバーを押します。

**2** AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。(コードに極性はありません。)

**3** レバーを放すとロックします。

コードを軽く引いて、正しく接続されているか確認してください。

**4** アンテナをアンテナスタンドに取り付けます。

**5** アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



- AMループアンテナはスタンドから取り外して壁などに取り付けることもできます。

#### メモ

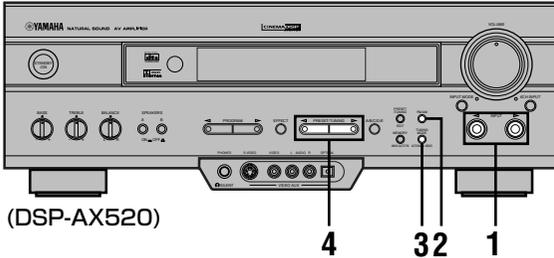
- AMループアンテナは本機から離して設置してください。
- AMループアンテナは屋外アンテナを接続した場合でも必ず接続しておいてください。

放送を良好に受信するためには屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳細は最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

## 選局する

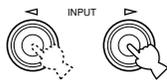
選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。

電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

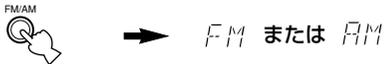


### ■ オート選局

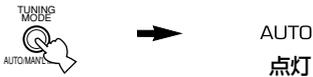
**1** INPUT </> キーを押してTUNERを選びます。



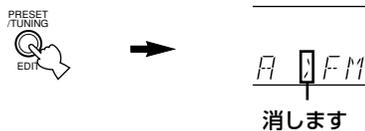
**2** FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選びます。



**3** TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケータを点灯させます。

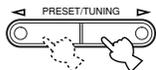


ディスプレイのバンド表示の隣に「>」が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押して「>」を消します。



**4** PRESET/TUNING <または> キーを押します。

高い周波数の放送局を探すときは > キーを、低い周波数の放送局を探すときは < キーを押します。受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度キーを押します。

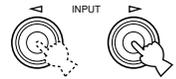


- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時はマニュアル選局してください。
- 放送局を受信するとディスプレイにTUNEDインジケータが点灯し、周波数が表示されます。

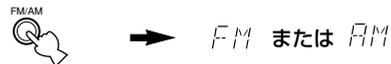
### ■ マニュアル選局

電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。

**1** INPUT </> キーを押してTUNERを選びます。



**2** FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選びます。



**3** TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケータを消します。

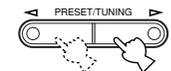


ディスプレイのバンド表示の隣に「>」が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押して「>」を消します。



**4** PRESET/TUNING <または> キーを押します。

押し続けると連続的に周波数が変わります。



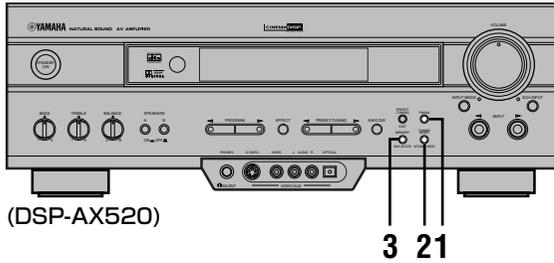
### メモ

- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音は軽減されます。

## 放送局のプリセット

## ■ オートプリセットのしかた(FM放送局)

FM局のみを自動的にプリセットすることができます。電波の強い放送局を40局(8局×5グループ)までプリセットすることができます。放送局をプリセット(メモリー)しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます。



## 1 FM/AMキーを押してFMを選びます。

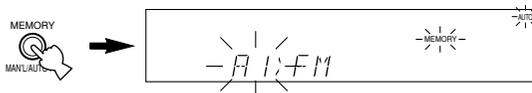


## 2 TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させます。



## 3 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒間押します。

プリセット番号とMEMORYとAUTOインジケーターが点滅します。5秒程すると現在表示されている周波数から高い周波数へ向けて、オートプリセットが始まります。



オートプリセットが終了すると最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。

## メモ

- 新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。
- プリセットしたとき、放送局の周波数と受信モードもメモリーされます。
- プリセットされたFMまたはAM放送局を手動で入れかえることができます。P.29「マニュアルプリセットのしかた」を参照してください。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全帯域を一巡して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけがプリセットされます。電波の弱い放送局をプリセットするときは、マニュアルプリセットをしてください(受信モードはモノラルになります)。

## オートプリセットオプション

FM局をメモリーし始めるプリセット番号を選択できます。また、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。オートプリセットを始める前に(手順3でMEMORYキーを押した後)次の操作をしてください。

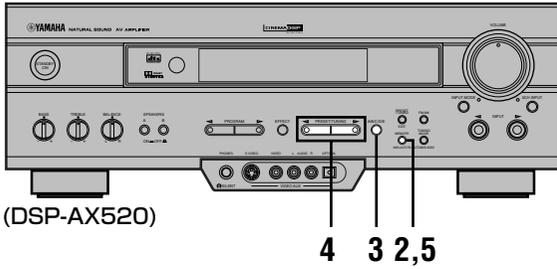
1. A/B/C/D/EとPRESET/TUNING </> キーを押して、最初にメモリーさせたいプリセット番号を選択します。局が「E8」まですべてメモリーされると、オートプリセットは終了します。
2. PRESET/TUNING(EDIT)キーを押して“>”を消し、それからPRESET/TUNING < キーを押すと、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを開始します。

## メモリーバックアップについて

本機の電源を切ってもプリセットの内容は消えずに記憶(メモリー)されています。また、電源コードをACコンセントから抜いても約1週間位はメモリーしています。もし、時間が経過してプリセットした放送局が消えてしまったときは、再度プリセットしてください。

## ■ マニュアルプリセットのしかた

マニュアルでも40局(8局 x 5グループ)までプリセットできます。

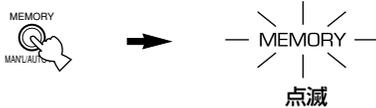


### 1 プリセットしたい放送局を選局します。

P.27の「選局する」の手順を参照してください。

### 2 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押します。

MEMORYインジケータが約5秒間点滅し、プリセットできる状態になります。



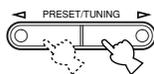
### 3 MEMORYインジケータの点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押してプリセットグループ(A~E)を選びます。

グループが表示されます。バンド表示の隣に「:」が点灯していることを確認してください。



### 4 MEMORYインジケータの点滅中に、PRESET/TUNING </> キーを押し、プリセット番号(1~8)を選びます。

< を押すとプリセット番号が戻り、> を押すと次に進みます。



### 5 MEMORYインジケータの点滅中に、MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押します。

選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)、周波数がディスプレイに表示されます。



### 6 他の放送局を続けてプリセットするときは1~5の手順を繰り返します。

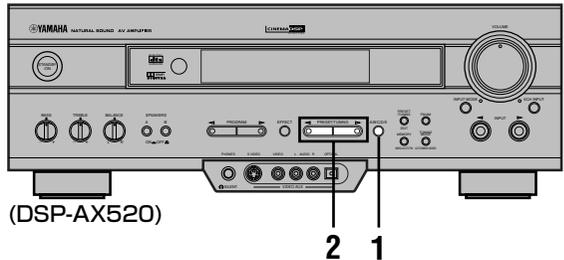
#### メモ

- 新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。
- プリセットしたとき、放送局の周波数と受信モードもメモリーされます。

## プリセット選局のしかた

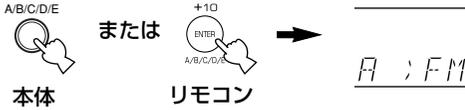
プリセット番号を選ぶだけでそこにプリセットした放送局を選局できます。

リモコンでもプリセット選局できます。AMP(TUNER)モードキーを押し、インプットセレクターでTUNERを選んでから操作してください。



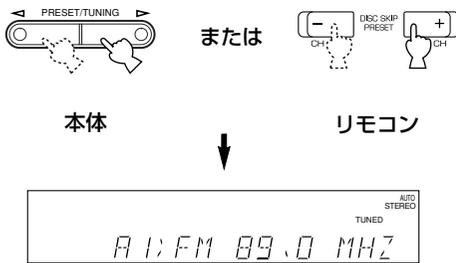
**1** A/B/C/D/Eキーを押して、放送局をプリセットしたグループを選びます。

プリセットグループがディスプレイに表示されます。A/B/C/D/Eキーを押してグループを変えられます。



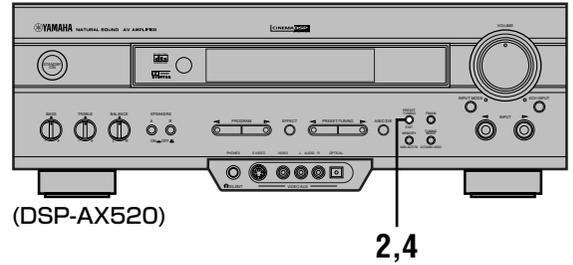
**2** PRESET/TUNING </> キー(または PRESET -/+ キー)を押して、プリセット番号を選びます。

プリセットグループとプリセット番号が放送バンド (FMまたはAM)、周波数とともにディスプレイに表示されます。TUNEDインジケータが点灯します。



**プリセット局の入れかえ**

プリセットした放送局を入れかえることができます。ここでは「E1」にプリセットした放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

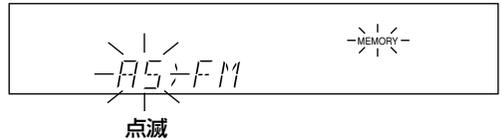


**1** 「E1」にプリセットした放送局を選局します。「プリセット選局のしかた」を参照してください。

**2** PRESET/TUNING(EDIT) キーを約3秒間押します。E1とMEMORYインジケータがディスプレイに点滅します。



**3** 「A5」にプリセットした放送局を本体のキーを使って選局します。A5とMEMORYインジケータがディスプレイに点滅します。

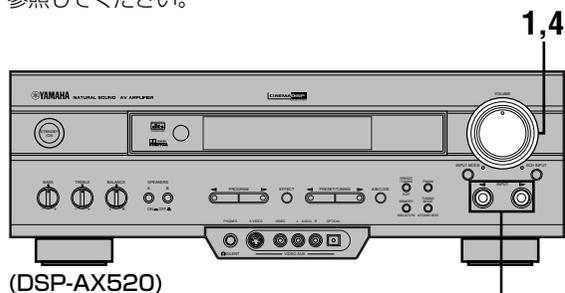


**4** PRESET/TUNING(EDIT) キーを押します。プリセット局が入れかわります。

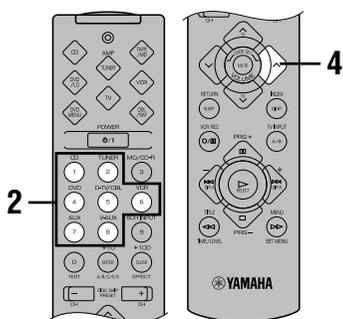


# 録音と録画

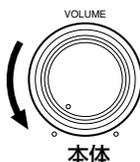
本機は、再生中のソースの音声/映像信号をそのまま音声/映像出力端子に出力しますので、録音レベルの調節など、録音/録画のための操作を本機で行うことはありません。MDレコーダー、CDレコーダー、ビデオデッキの取扱説明書を参照してください。



(DSP-AX520)

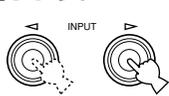


**1** VOLUMEコントロールを最小にあわせます。



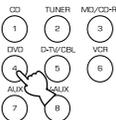
本体

**2** インプットセレクターで録音/録画するソースを選びます。



本体

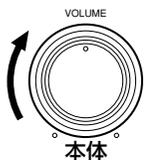
または



リモコン

**3** MDレコーダー、CDレコーダー、ビデオデッキなどで録音/録画を始めます。

**4** ソースの再生を開始し、音量を上げて入力ソースを確認してください。



本体

または



リモコン

## メモ

- 録音/録画する場合、事前に「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機の電源を切ると、接続した機器間の録音/録画は行えません。
- トーンコントロール(BASS、TREBLE)、BALANCEコントロール、VOLUMEコントロール、音場プログラムなどを操作しても、録音/録画には影響しません。
- 6CH INPUT端子から入力された信号はMAIN L、Rを除いて録音することができません。
- 入力ソースと同一のREC OUTには出力されません。(たとえば、VCR1の信号はVCR1のREC OUTには出力されません。)
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は著作権者に無断で使用することはできません。
- **DSP-AX520のみ**

S VIDEO端子からの録画は、S VIDEO端子どうしのみ、コンポジット端子からの録画はコンポジット端子どうしのみ有効です。

## ■ DTSソフトの録音について

### DSP-AX520のみ

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されます。DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応ディスクの信号を録音するために次の事項に注意し、必要な設定を行ってください。

DTS DVDおよびCDの場合、2チャンネルアナログオーディオ信号として録音します。お使いのプレーヤーが対応する場合はプレーヤーの取扱説明書に従って、プレーヤーからアナログ信号が出力するように設定してください。

## ■ タイマー再生/録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せて参照してください。

## メモ

- タイマー再生/録音時には、本機のメモリーに記憶された内容(選択ソース等)が反映されます。
- タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。

### タイマー使用時のメモリーバックアップについて

本機の電源を切っても(電源コードをコンセントから抜いた状態)選択していたソース、音量レベルおよびセットメニュー等の設定内容はメモリーされています。しかしタイマーOFFの状態が1週間以上続くとこのメモリー内容は消去されます。



# セットメニュー

本機には、お手持ちのシステムで最適なオーディオ/ビデオ再生をお楽しみいただけるように下記のセットメニューがあります。お使いになる環境にあわせて設定してください。



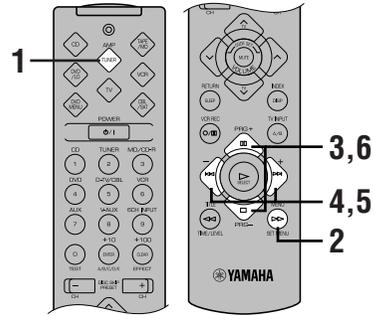
● 再生中もセットメニューの設定を行えます。

## ■ セットメニュー一覧

- 1 **SPEAKER SET**  
スピーカー セット  
センター スピーカー  
**CENTER SP**  
メイン スピーカー  
**MAIN SP**  
リア エルアール スピーカー  
**REAR LR SP**  
バス アウト  
**BASS OUT**  
メイン レベル  
**MAIN LVL**
- 2 **HP TONE CTRL**  
ヘッドホン トーン コントロール
- 3 **I/O ASSIGN**  
アイオー アサイン  
インプット モード
- 4 **INPUT MODE**  
ドルビー デジタル セット
- 5 **DOLBY D. SET**  
エルエフイー レベル  
**LFE LEVEL**  
ダイナミック レンジ  
**D-RANGE**
- 6 **DTS SET**  
ディーティーエス セット  
スピーカー ディレイ タイム
- 7 **SP DLY TIME**  
ディスプレイ セット
- 8 **DISPLAY SET**  
メモリー ガード
- 9 **MEM. GUARD**

## セットメニューの操作手順

リモコンで操作します。



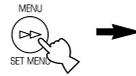
### メモ

● 項目によっては更に別な手順が必要となる場合があります。

**1** AMP(TUNER)モードキーを押します。

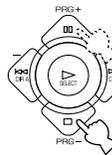


**2** SET MENUキーを押します。



1 SPEAKER SET

**3** PRG-キー(またはPRG+キー)を繰り返し押し、設定したいメニュー(1~9)を選択します。



3 I/O ASSIGN

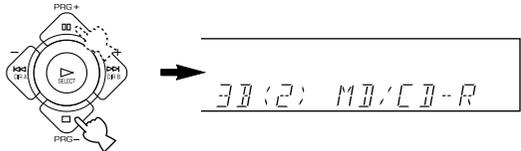


● SET MENUキーを繰り返し押ししても、PRG-キーと同じ順番でセットメニューの項目を選べます。

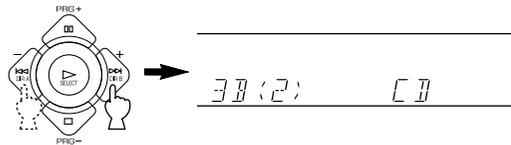
- 4** –または+キーを一度押して、選択したメニューのセットアップモードに入ります。現在の設定がディスプレイに表示されます。



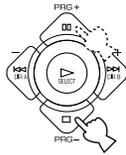
項目によってはPRG-キー(またはPRG+キー)を押して、サブメニューを選びます。



- 5** –または+キーを繰り返し押して、設定を変えます。



- 6** セットメニューを終了するときは、入力ソースが表示されるまでPRG-キー(またはPRG+キー)を繰り返し押します。



**メモリーバックアップについて**

本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー(記憶)されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

スピーカー セット  
**1 SPEAKER SET (スピーカーモードの設定)**

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。

**メモ**

- 6CH INPUT端子から入力した信号には、スピーカーモードの設定は適応されません(「MAIN LVL」を除く)。
- **DSP-AX520のみ**

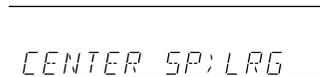
デジタル入力でサンプリング周波数が96kHzの場合は、「MAIN SP」、「BASS OUT」および「MAIN LVL」のみ設定が可能です。「CENTER SP」と「REAR LR SP」の設定は適応されません。

センター スピーカー  
**■ CENTER SP (センタースピーカーモード)**

センタースピーカーを追加することによって、画像と音声により一体感が出ます。また優れた音場効果の得られるリスニングエリアも広がるため、多くのリスナーでお楽しみいただけるようになります。

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード(LRG/SML/NON)を選択します。

初期設定:LRG



ラージ  
**LRG(LARGE)**

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

スモール  
**SML(SMALL)**

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「BASS OUT」で選択したスピーカーに出力されます。

ノン  
**NON(NONE)**

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインスピーカーL、Rに同じレベルで振り分けられます。

**■ MAIN SP (メインスピーカーモード)**

使用するメインスピーカーに合わせて、モード(LARGE/SMALL)を選択します。

初期設定: LARGE

MAIN SP: LARGE

**LARGE**

メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインスピーカーL、Rに出力されます。

**SMALL**

メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。

**メモ**

- SMALL設定時でも、「BASS OUT」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

**■ REAR LR SP (リアL、Rスピーカーモード)**

使用するリアスピーカーL、Rに合わせて、モード(LRG/SML/NON)を選択します。

初期設定: LRG

REAR LR SP: LRG

**LRG(LARGE)**

リアスピーカーL、Rに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーL、Rにリア側サブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合のモードです。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。

**SML(SMALL)**

リアスピーカーL、Rに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「BASS OUT」で選択されたスピーカーに出力されます。

**NON(NONE)**

リアスピーカーL、Rを使用しないときのモードです。



- 「REAR LR SP」をNONに設定するとバーチャルシネマDSPモードになります。

**■ BASS OUT (バスアウトモード)**

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。(LFE信号:ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

初期設定: BOTH

BASS OUT: BOTH

**SWFR(SUBWOOFER)**

サブウーファーを使用する場合のモードです。

LFEと、「CENTER SP」「MAIN SP」と「REAR LR SP」の設定により他チャンネルの90Hz以下の低音域が、サブウーファーに出力されます。

**MAIN**

サブウーファーを使用しない場合のモードです。

LFEと、「CENTER SP」「MAIN SP」と「REAR LR SP」の設定により他チャンネルの90Hz以下の低音域が、メインスピーカーL、Rに出力されます。

**BOTH**

サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーL、Rの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。メインスピーカーL、Rの低音域がメインスピーカーL、Rとサブウーファーの両方に出力されます。(2チャンネル再生・ドルビーサラウンド再生時にサブウーファーを鳴らすことができます。)

**メモ**

- 「CENTER SP」「MAIN SP」と「REAR LR SP」の設定をスモールにすると、スモールに設定したチャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEに加わってサブウーファーに出力されます。

**■ MAIN LVL (メインレベルモード)**

メインスピーカーの出力レベルを設定します。メインスピーカーが極端に高効率であるため、センタースピーカーやリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、メインレベルを下げるすることができます。

初期設定: NORM(Normal)

MAIN LVL: NORM

**NORM(Normal)**

通常はこの設定にします。

**-10 dB**

メインレベルを-10dB(約1/3)にします。センタースピーカーやリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合はこの設定にします。

## 2 HP TONE CTRL (ヘッドホントーンコントロール)

ヘッドホンの低音域および高音域を調節します。

可変範囲(dB)：-6～+3

初期設定：(低音域、高音域ともに)0dB



+キーを押すと低音域もしくは高音域が大きくなります。-キーを押すと小さくなります。

## 3 I/O ASSIGN (入出力端子名の割り当て)

使用する機器と本機のDIGITAL端子の設定(端子の機器名)が異なる場合は、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。また、使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合など、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を有効に接続することができます。この設定により、変更後の機器をインプットセレクターで選べるようになります。

### DSP-AX520

#### ■ 3A (1)(OPTICAL OUTPUT端子)

選択項目：(1) MD/CD-R, CD, V-AUX, VCR, D-TV/CBL, DVD, AUX

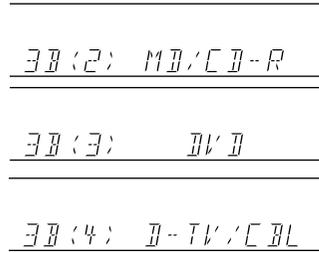
初期設定：(1) MD/CD-R



#### ■ 3B (2)~(4)(OPTICAL INPUT端子)

選択項目：(2) MD/CD-R, CD, VCR, D-TV/CBL, DVD, AUX  
(3) DVD, AUX, MD/CD-R, CD, VCR, D-TV/CBL  
(4) D-TV/CBL, DVD, AUX, MD/CD-R, CD, VCR

初期設定：(2) MD/CD-R  
(3) DVD  
(4) D-TV/CBL



#### ■ 3C (5)(COAXIAL INPUT端子)

選択項目：(5) CD, V-AUX, VCR, D-TV/CBL, DVD, AUX, MD/CD-R

初期設定：(5)CD



#### メモ

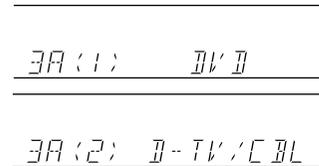
● 3Bの中では、同一の端子名をアサインすることはできません。

### DSP-AX420

#### ■ 3A (1)および(2)(OPTICAL INPUT端子)

選択項目：(1) DVD, AUX, CD, VCR, D-TV/CBL  
(2) CD, VCR, D-TV/CBL, DVD, AUX

初期設定：(1)DVD  
(2)D-TV/CBL



#### ■ 3B (3)(COAXIAL INPUT端子)

選択項目：(3) CD, V-AUX, VCR, D-TV/CBL, DVD, AUX

初期設定：(3)CD



#### メモ

● 3Aの中では、同一の端子名をアサインすることはできません。

インプット モード  
**4 INPUT MODE**  
**(電源投入時入力モード)**

同一の再生機器を2種類以上の入力端子に接続している場合の、電源を入れたときの入力モードを設定します。

初期設定: AUTO



オート  
**AUTO**

電源を入れると入力モードはAUTOに設定されます。

ラスト  
**LAST**

入力モードの最後の設定がメモリーされ、電源を入れたと同じ設定になります。

**5 DOLBY D. SET**  
**(ドルビーデジタルセット)**

この設定はドルビーデジタル再生時のみ有効です。

エルエフイー  
**LFE LEVEL (LFEレベル)**

ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。LFE信号は、ドルビーデジタルにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲(dB): -20~0

初期設定: 0dB



- +キーを押すとLFEレベルが大きくなります。
- キーを押すと小さくなります。

**メモ**

- 使用するサブウーファースの能力に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。
- 通常、ご家庭でのご使用では-6~-8dBに調節してください。

**D-RANGE (ダイナミックレンジ)**

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)を、MAX、STDまたはMINの3種類から設定します。

初期設定: MAX



マックス  
**MAX**

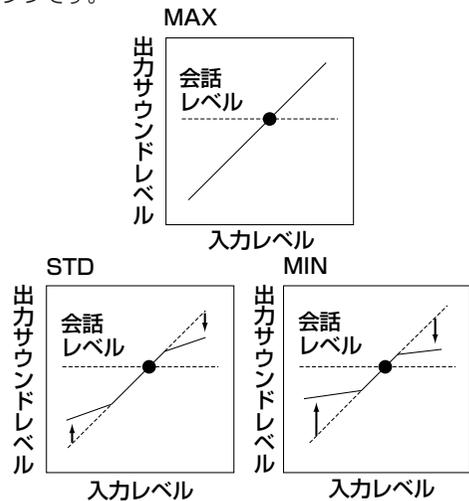
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

スタンダード  
**STD (STANDARD)**

ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

ミニマム  
**MIN**

小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。



**メモ**

- ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。





# ディレイタイムとエフェクトスピーカーのレベル調節

ディレイタイムは各音場プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。また、スピーカーレベルもテストトーンで調節されていれば各音場効果をお楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聞きながらソースやリスニングルームの状況に応じてさらに調節することができます。

## ディレイタイム

メインスピーカーの音とリアスピーカーのサラウンド音が出力される際の時間差をディレイタイムといいます。数値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。ディレイタイムは各音場プログラムごとに設定することができます。

### メモ

- ソースによっては、ディレイタイムを大きくしすぎると音場効果が不自然になることがあります。
- ディレイタイムを調節しているとき、音声が一瞬とぎれることがあります。

|   | プログラム名                 | 初期設定(ms) |
|---|------------------------|----------|
| 1 | CONCERT HALL           | 45       |
| 2 | JAZZ CLUB              | 30       |
| 3 | ROCK CONCERT           | 15       |
| 4 | DISCO                  | 26       |
|   | 5CH STEREO             | 2        |
|   | GAME                   | 36       |
| 5 | TV SPORTS              | 10       |
| 6 | MONO MOVIE             | 69       |
| 7 | 70mm SPECTACLE         | 23       |
|   | DGTL SPECTACLE         | 13       |
|   | DTS SPECTACLE          | 13       |
|   | 70mm SCI-FI            | 20       |
|   | DGTL SCI-FI            | 16       |
|   | DTS SCI-FI             | 16       |
| 8 | 70mm ADVENTURE         | 20       |
|   | DGTL ADVENTURE         | 15       |
|   | DTS ADVENTURE          | 15       |
|   | 70mm GENERAL           | 20       |
|   | DGTL GENERAL           | 15       |
|   | DTS GENERAL            | 15       |
| 9 | PRO LOGIC/NORMAL       | 20       |
|   | DOLBY DIGITAL/NORMAL   | 5        |
|   | DTS/NORMAL             | 5        |
|   | PRO LOGIC/ENHANCED     | 20       |
|   | DOLBY DIGITAL/ENHANCED | 5        |
|   | DTS/ENHANCED           | 5        |

## スピーカーレベル

必要ならば、P.18「スピーカーレベルの調節」で一度設定したエフェクトスピーカーの音量レベルを、再生音を聞きながらソースに合わせて調節することができます。

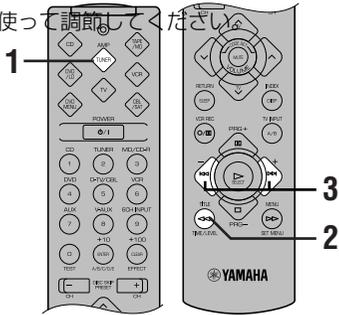
### メモ

- 以下の場合センタースピーカーのレベルは調節できません。
  - ーセットメニューの「CENTER SP」でNON選択時(センターチャンネルが左右メインスピーカーから出力されるため)
  - ー6CH INPUT端子からの入力信号選択時
- スピーカーレベルの調節は、すべての音場プログラムに共通して設定されます(音場プログラムごとには設定できません)。

| スピーカー   | 初期設定(dB) |
|---------|----------|
| センター    | 0        |
| リアR     | 0        |
| リアL     | 0        |
| サブウーファー | 0        |

## 調節のしかた

リモコンを使って調節してください。

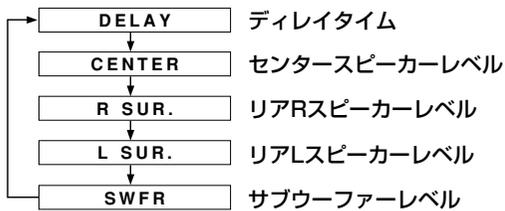


**1** AMP(TUNER)モードキーを押します。



**2** TIME/LEVELキーを繰り返し押し調節したい項目を選びます。

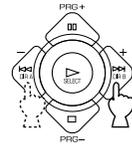
キーを押すたびに項目が以下のように切り替わり、ディスプレイに表示されます。



### メモ

- セットメニューの設定によっては選択できない項目があります。

**3** ーまたは+キーを押してディレイタイム、スピーカーレベルを調節します。



**4** 手順の2と3を繰り返し他の項目を設定してください。

### メモ

- セットメニューの「CENTER SP」および「REAR LR SP」がNONに、「BASS OUT」がMAINに設定されている場合、そのスピーカーのレベル調整はできません。
- TIME/LEVELキーでスピーカーレベルを調整すると、テストトーンで調整したスピーカーレベルも変更されます。
- サブウーファー以外のスピーカーの調整はP.18「テストトーンによる調節」をお勧めします。

### メモリーバックアップについて

本機の電源を切っても、セットした内容は消えずに記憶(メモリー)されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消えます。その場合は、もう一度セットしなおしてください。



# スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的にスタンバイモードになるので、ソースを聴きながらおやすみになれます。リモコンで操作します。

## メモ

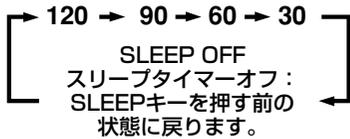
- 再生する機器に応じてモードキーのAMP(TUNER)、TAPE/MD、CDまたはDVD/LDを押してから操作します。
- 本機のAC OUTLETS SWITCHED(電源供給コンセント)に接続した機器(ソース)を選びます。それ以外の機器を選ぶと、設定した時間が経過してもソース側の機器はオフになりません。

## スリープタイマーのセットのしかた

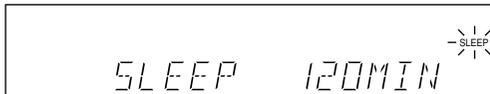
**1** ソースを再生します。

**2** SLEEPキーを押して時間を設定します。

押すごとに次のように表示され、切り替わります(単位:分)。



点滅



**3** セットが完了するとSLEEPインジケータが点灯します。

通常のディスプレイ表示に戻ります。

点灯



## スリープタイマーの解除

“SLEEP OFF”と表示されるまでSLEEPキーを押しつづけます。

SLEEPインジケータが消えます。



SLEEP OFF



- POWERキー(または本体のSTANDBY/ONスイッチ)で本機をスタンバイモードにするか、電源コンセントから電源コードを抜いても、スリープタイマーを解除できません。



# リモコンで操作する

本機に付属のリモコンで本機および本機以外のいくつかのヤマハAV機器を操作できます。また各メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定することにより、他社のいくつかの機器(またはヤマハのいくつかの機器)を操作することもできます。

## メモ

- リモコンの乾電池と操作範囲、各部の名称とはたらきについてはP.4およびP.5「リモコン」、「リモコンの電池の入れ方」、「リモコンの使用範囲」を参照してください。

## モードキー

リモコンには8つのモードキーがあります。操作したい機器に対応するモードキーを押してから操作してください。たとえば、CDモードキーを押せば、リモコンがCDを操作するモードに切り換わり、CDプレーヤーの操作ができます。

### AMP(TUNER)

本機の操作ができます。

### CD

工場出荷時はヤマハCDプレーヤー操作用のメーカーコードが設定されています。

### DVD/LDとDVD MENU

DVD/LDとDVD MENUモードでDVDプレーヤーが、DVD/LDモードでLDプレーヤーの操作ができます。工場出荷時はヤマハDVDプレーヤー操作用のメーカーコードが設定されています。

### TAPE/MD

工場出荷時はヤマハMDレコーダー操作用のメーカーコードが設定されています。テープデッキまたはCDレコーダーを操作するときは、それぞれのメーカーコードを設定してください。

### VCR

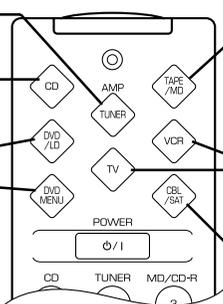
ビデオデッキの操作ができます。

### TV

テレビの操作ができます。

### CBL/SAT

ケーブルテレビや衛星チューナーの操作ができます。

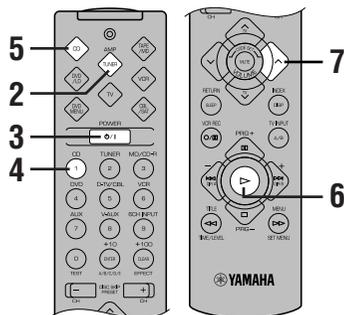


## メモ

- 操作モードによってキーの機能が変わります。P.42~P.45「各モードのリモコン機能」をご覧ください。
- 工場出荷時には各モードごとにP.47に記載したヤマハのメーカーコードが設定されています。お手持ちのヤマハAV機器を操作できないときには、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

## 接続機器の操作のしかた

### ■ 例：ヤマハCDプレーヤーでCDを再生するには



**1** VOLUMEコントロールが最小になっていることを確認してください。

**2** AMP(TUNER)モードキーを押します。



**3** 電源をオンにします。



**4** インプットセクターでCDを選びます。

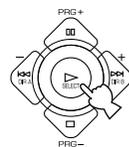


**5** CDモードキーを押します。

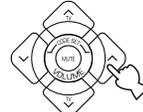


**6** ▷キーを押します。

CDプレーヤーの操作ボタンについてはP.43「CDモード」を参照してください。



**7** 音量を調整してください。



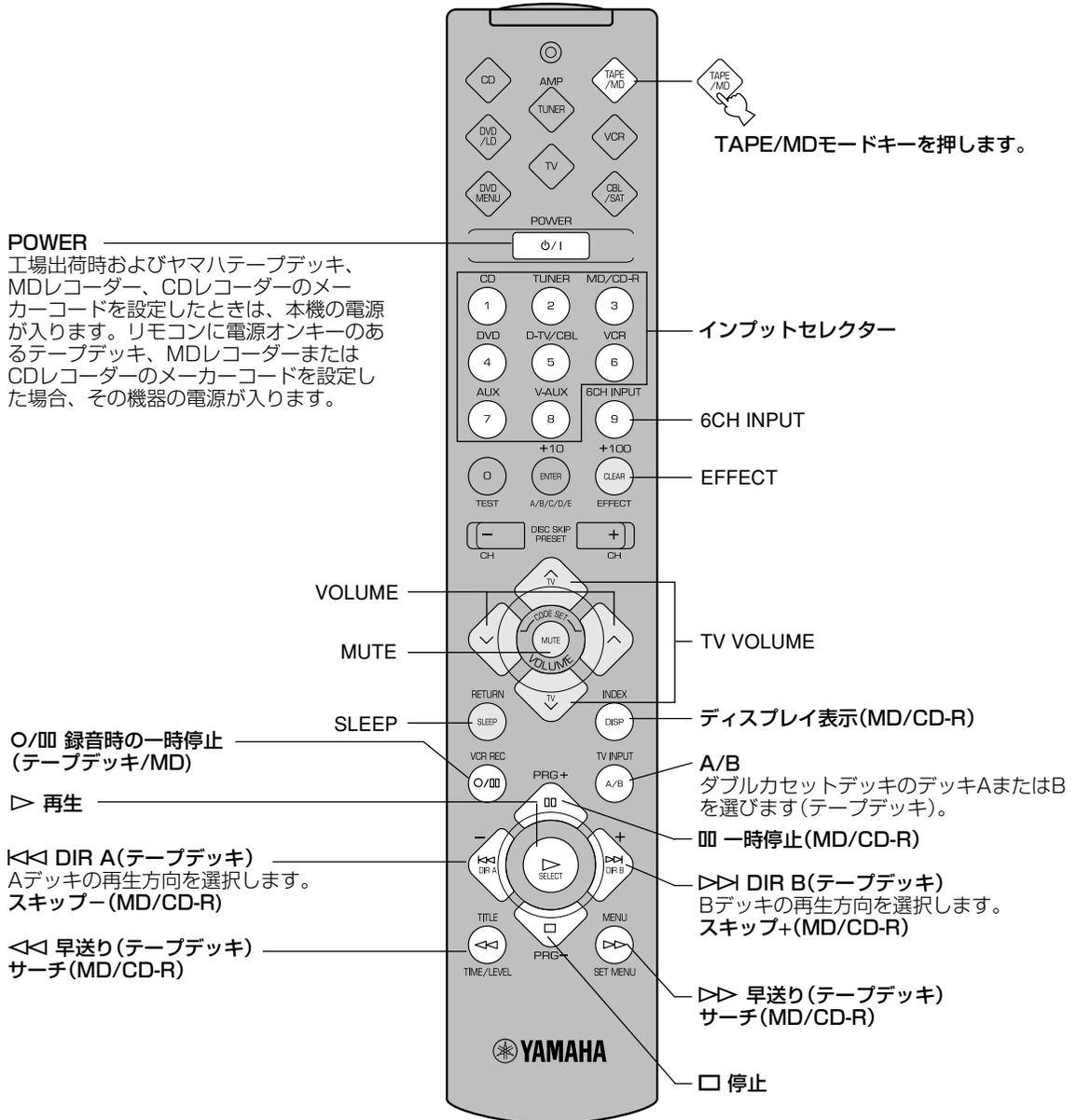
リモコンに、この取扱説明書の最後に記載してあるメーカーコードを設定すれば、他社の機器をリモコンで操作することができます。設定のしかたは、P.46「メーカーコードの設定」を参照してください。

## 各モードのリモコン機能

### ■ TAPE/MDモード

#### メモ

- TV VOLUMEキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。

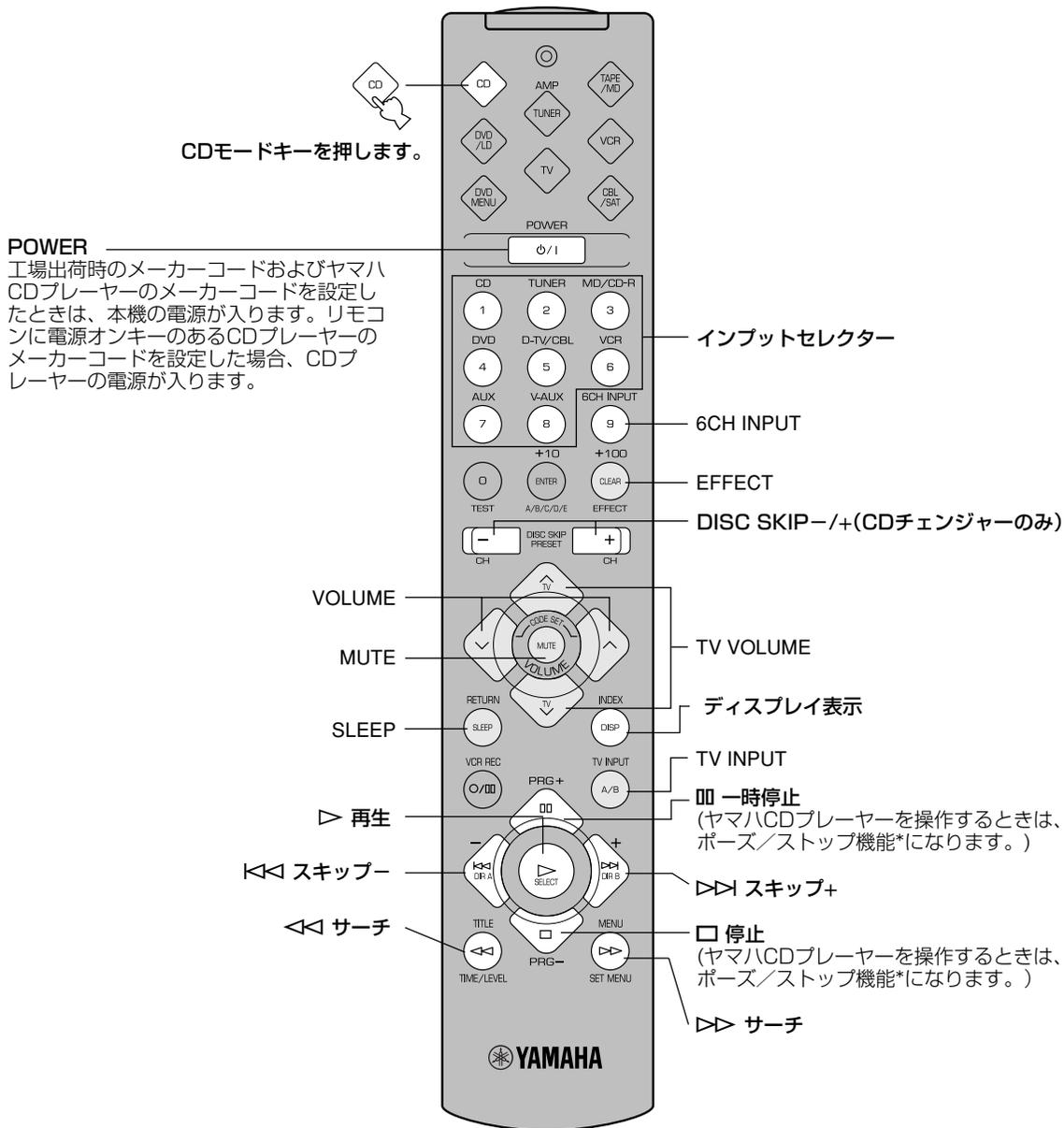


- リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## ■ CDモード

### メモ

- TV VOLUMEキーとTV INPUTキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。



応用操作

\*一度押すと一時停止(ポーズ)、2度押すと停止(ストップ)します。

- リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## ■ DVD/LDモード

### メモ

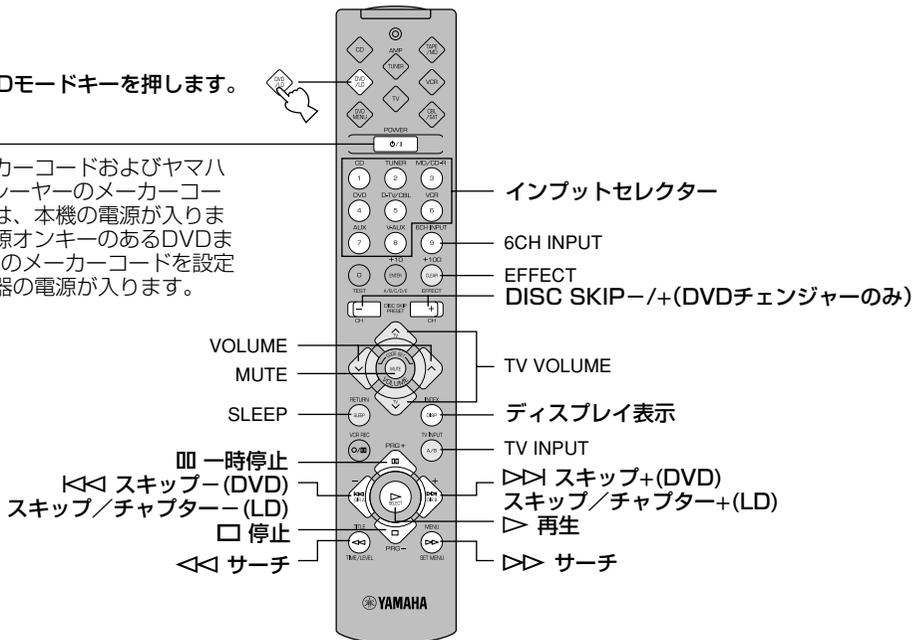
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。

DVD/LDモードキーを押します。



### POWER

工場出荷時のメーカーコードおよびヤマハDVDまたはLDプレーヤーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。リモコンに電源オンキーのあるDVDまたはLDプレーヤーのメーカーコードを設定した場合、その機器の電源が入ります。



## ■ DVD MENUモード

### メモ

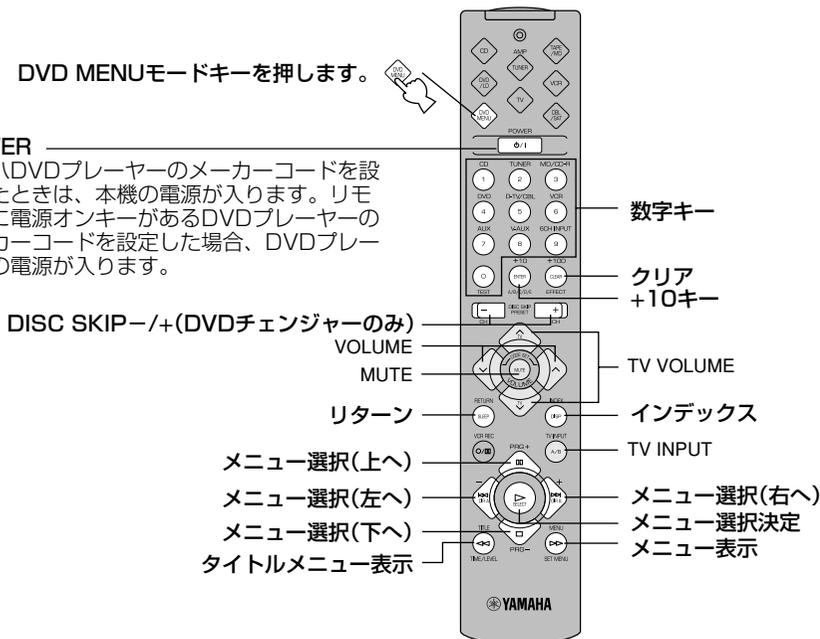
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。
- DVDプレーヤーによってはDVD MENUモードでの操作ができないものもあります。

DVD MENUモードキーを押します。



### POWER

ヤマハDVDプレーヤーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。リモコンに電源オンキーがあるDVDプレーヤーのメーカーコードを設定した場合、DVDプレーヤーの電源が入ります。

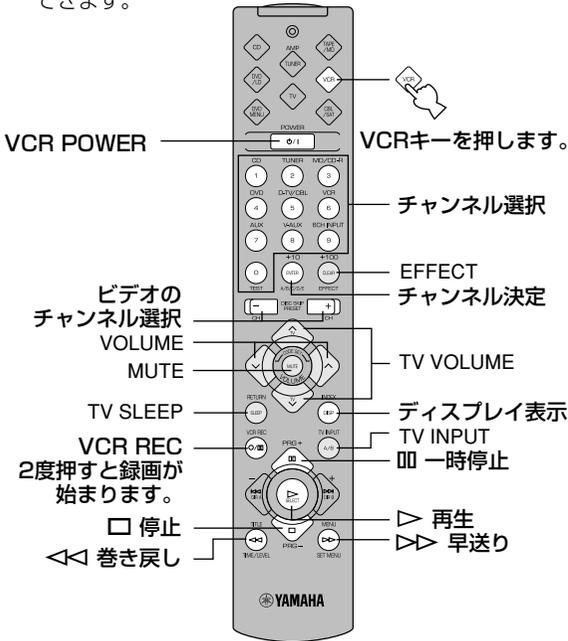


- リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## ■ VCRモード

### メモ

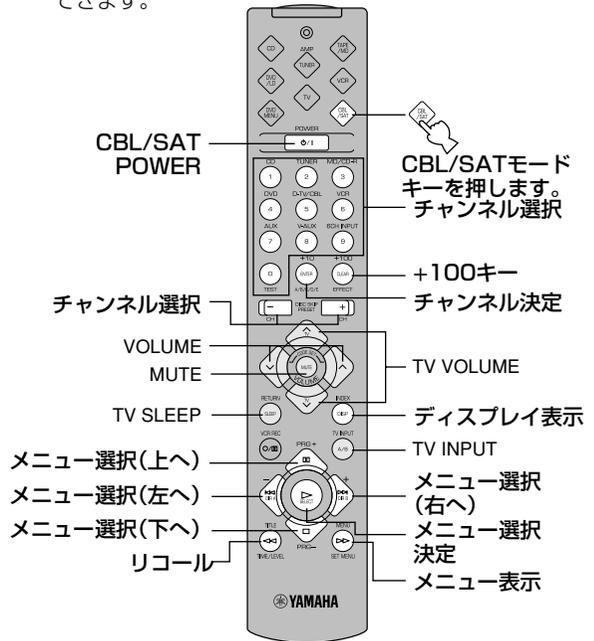
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキー、TV SLEEPキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。



## ■ CBL/SATモード

### メモ

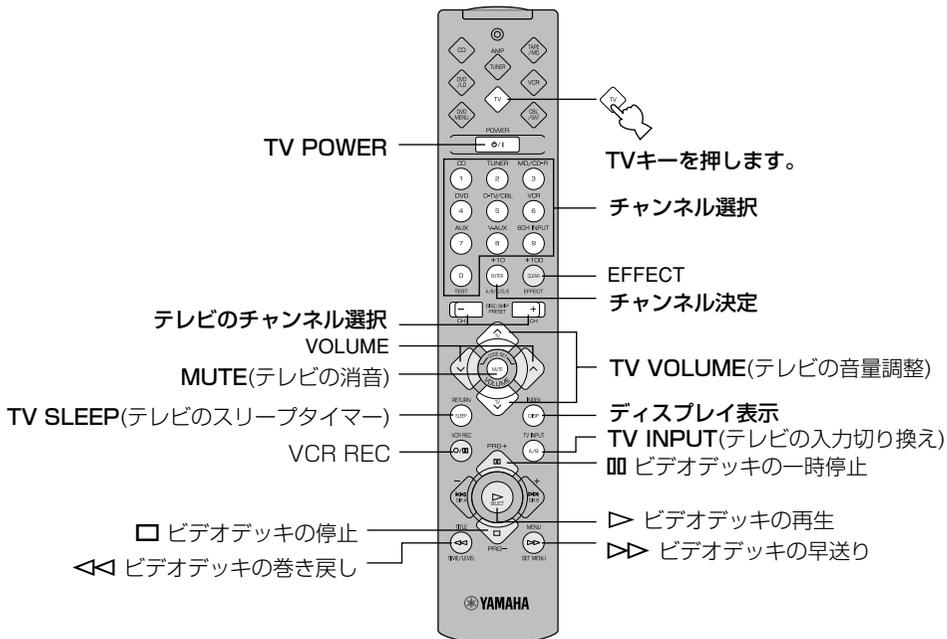
- TV VOLUMEキー、TV INPUTキー、TV SLEEPキーは、テレビ操作用のメーカーコードを設定してから操作できます。



## ■ TVモード

### メモ

- VCRモードにビデオデッキのメーカーコードを設定すると、一部のキーでビデオデッキの操作もできます。



- リモコン本体と同じ、濃い灰色になっているキーは他社のメーカーコードを設定している場合でも機能しません。
- お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しないこともあります。その場合にはお手持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。

## メーカーコードの設定

### ■ リモコンにメーカーコードを設定するには

本機のリモコンに、お手持ちの機器のメーカーコードを設定することができます。

各AV機器のメーカーコードについてはP.60およびP.61の「メーカーコード一覧表」を参照してください。

#### メモ

- AMP(TUNER)モードには設定できません。

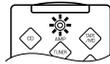
### 1 設定する機器の電源を入れます。

### 2 設定する機器のモードキーを押します。



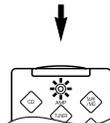
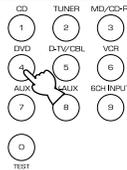
### 3 VOLUMEへ/へキーを同時に約4秒間押します。

インジケーターが2回点滅します。



### 4 数字キーを使って機器のメーカーコード(4桁)を入力します。(キーを押すごとにインジケーターが点灯することを確認してください。)

インジケーターが2回点滅するのを確認してください。



### 5 POWERキー(またはその他の操作キー)を押してみて、コードが正しく設定されたか確認してください。

操作できない場合は、同じメーカーの別のメーカーコードを設定してみてください。



#### メモ

- 1つのモードには1つのメーカーコードしか設定できません。
- DVD/LDモードとDVD MENUモードに設定するとき: DVD MENUモードキーを押しても、DVDプレーヤーのメーカーコードを設定することはできません。DVDプレーヤーまたはLDプレーヤーのメーカーコードを設定するときは、DVD/LDモードキーを押してください。DVDプレーヤーのメーカーコードをDVD/LDモードに設定すると、DVD MENUモードにも同様に設定されます。

本リモコンは全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵していませんので、お手持ちのAV機器が操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも動作しないときはオリジナルのリモコンをお使いください。

### ■ 2台目(3台目)のビデオデッキを使用するには

ケーブルテレビや衛星放送チューナーを使用しないときはCBL/SATモードに、またDVDプレーヤーを使用しないときはDVD MENUモードに、2台目(3台目)のビデオデッキのメーカーコードを設定できます。

#### メモ

- DVD MENUモードにビデオデッキのメーカーコードを設定するときは、必ずDVD/LDモードにLDプレーヤーのメーカーコードを設定してから行ってください。

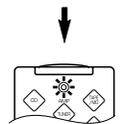
### 1 ビデオデッキの電源を入れます。

### 2 CBL/SATまたはDVD MENUモードキーを押します。



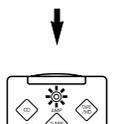
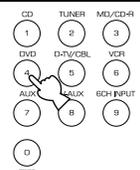
### 3 VOLUMEへ/へキーを同時に約4秒間押します。

インジケーターが2回点滅します。



### 4 数字キーを使ってビデオデッキのメーカーコード(4桁)を入力します。(キーを押すごとにインジケーターが点灯することを確認してください。)

インジケーターが2回点滅するのを確認してください。



### 5 POWERキー(またはその他の操作キー)を押してみて、コードが正しく設定されたか確認してください。

操作できない場合は、同じメーカーの別のメーカーコードを設定してみてください。



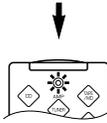
## 工場出荷時の設定に戻すには

## ■ すべてのモードを工場出荷時のメーカーコードに戻す

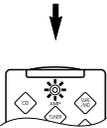
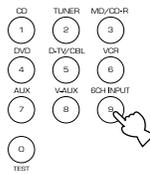
**1** AMP (TUNER) 以外のモードキーを押します。



**2** VOLUME  $\wedge$ / $\vee$  キーを同時に約4秒間押します。  
インジケータが2回点滅します。



**3** 数字キーを使って“9990”を入力します。  
インジケータが2回点滅するのを確認してください。

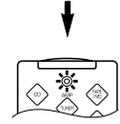


## ■ 各モードを工場出荷時のメーカーコードに戻す

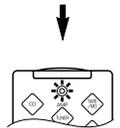
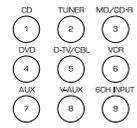
**1** 工場出荷時の設定に戻したいモードキーを押します。



**2** VOLUME  $\wedge$ / $\vee$  キーを同時に約4秒間押します。  
インジケータが2回点滅します。



**3** 数字キーを使って“0000”を入力します。  
インジケータが2回点滅するのを確認してください。



工場出荷時には下記のメーカーコードが設定されています

| モードキー   | 機器          | メーカーコード           | 設定した機器 | 設定したメーカーコード |
|---------|-------------|-------------------|--------|-------------|
| TV      | TV          | 0101              |        |             |
| CBL/SAT | ケーブルTVチューナー | 0006              |        |             |
| VCR     | ビデオデッキ      | 0002              |        |             |
| DVD/LD  | DVDプレーヤー    | 0008(ヤマハDVDプレーヤー) |        |             |
| CD      | CDプレーヤー     | 0005(ヤマハCDプレーヤー)  |        |             |
| TAPE/MD | MDレコーダー     | 0024(ヤマハMDレコーダー)  |        |             |

設定したメーカーコードを上表に書き留めておくことをお勧めします。



# 音場プログラム

本機にはヤマハの最新技術によるデジタル音場プロセッサー(DSP)が搭載されています。お聴きになるソースに合わせて、様々な音場を再現することができます。

## メモ

- 下記のプログラム名や特長にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

ハイファイ

## Hi-Fi DSPプログラム

### ■ オーディオ用：No.1～No.4

| No. | プログラム (グループ)                               | サブプログラム                                 | 特長   |
|-----|--|---|--|
| 1   | <small>コンサート ホール</small><br>CONCERT HALL   | —                                       | 円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊かな響きが特長です。                        |
| 2   | <small>ジャズ クラブ</small><br>JAZZ CLUB        | —                                       | ニューヨークで話題のライブハウス“ザ・ボトムライン”のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。 |
| 3   | <small>ロック コン서트</small><br>ROCK CONCERT    | —                                       | ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。                            |
| 4   | <small>エンターテインメント</small><br>ENTERTAINMENT | <small>ディスコ</small><br>DISCO            | ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。  |
|     |  | <small>チャンネル ステレオ</small><br>5CH STEREO | 広いエリアで楽しめる効果が特長のホームパーティーを演出する音場プログラムです。                                      |

## メモ

- メインスピーカーL,Rからは入力されたままのステレオ音声と音場を再現するための反射音(効果音)が出力されます。センタースピーカーからは音が出ません。(ドルビーデジタルまたはDTS入力時にこれらのプログラムを選択した場合は出力されます。また、5CH STEREO選択時には入力ソースに関わらず設定した全てのスピーカーから出力されます。)

## シネマDSPプログラム

### ■ ビデオ用：No. 4～No. 6

| No. | プログラム (グループ)                               | サブプログラム                    | 特長   |
|-----|--|----------------------------|--|
| 4   | <small>エンターテインメント</small><br>ENTERTAINMENT | <small>ゲーム</small><br>GAME | モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな興行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。   |
| 5   | <small>テレビ スポーツ</small><br>TV SPORTS       | —                          | プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。 |
| 6   | <small>モノ ルービー</small><br>MONO MOVIE       | —                          | 古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声の臨場感を持って再生されます。  |

## ■ 映画用 : No. 7~No. 9

| No. | プログラム<br>(グループ)                                   | サブプログラム               |                            | 入カソース                             | 特長  |  |
|-----|---|-----------------------|----------------------------|-----------------------------------|---|--|
| 7   | MOVIE<br>シアター<br>THEATER 1                        | スペクタクル<br>SPECTACLE   | 70 mm SPECTACLE            | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) | 70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。  |  |
|     |   |                       | DGTL SPECTACLE             | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS SPECTACLE              | DTS                               |   |  |
|     |   | サイエンスフィクション<br>SCI-FI | 70 mm SCI-FI               | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) |   | 最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニクを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンスフィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。  |
|     |   |                       | DGTL SCI-FI                | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS SCI-FI                 | DTS                               |   |  |
| 8   | MOVIE<br>シアター<br>THEATER 2                        | アドベンチャー<br>ADVENTURE  | 70 mm ADVENTURE            | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) | 最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデットにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。 |  |
|     |   |                       | DGTL ADVENTURE             | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS ADVENTURE              | DTS                               |   |  |
|     |   | ジェネラル<br>GENERAL      | 70 mm GENERAL              | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) |   | 70mm/ドルビーデジタルおよびDTSマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。                    |
|     |   |                       | DGTL GENERAL               | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS GENERAL                | DTS                               |   |  |
| 9   | ドビーデジタル/ディータイエス<br>サラウンド<br>DOLBY/DTS<br>SURROUND | ノーマル<br>NORMAL        | PRO LOGIC/<br>NORMAL       | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) | ドルビーサラウンド プロロジック/ドルビーデジタルデコーダーまたはDTSデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。このプログラムでは、デジタル音場プロセッサは作動しません。  |  |
|     |   |                       | DOLBY DIGITAL/<br>NORMAL   | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS/NORMAL                 | DTS                               |   |  |
|     |   | エンハンスト<br>ENHANCED    | PRO LOGIC/<br>ENHANCED     | アナログ、PCM、<br>ドルビーデジタル<br>(2チャンネル) |   | ドルビーサラウンドまたはDTSサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なもののヘシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。 |
|     |   |                       | DOLBY DIGITAL/<br>ENHANCED | ドルビーデジタル<br>(5.1チャンネル)            |   |  |
|     |   |                       | DTS/ENHANCED               | DTS                               |   |  |

## メモ

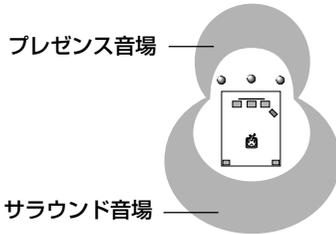
- **DD/DTS SURROUND**のサブプログラム“NORMAL”を選択している場合は、“ DSP ”インジケータは点灯しません。
- セットメニューの「CENTER SP」をNONに設定すると、センタースピーカーから音が出ません。
- モノラルソースをシネマDSPプログラム4(GAME)および5~8で再生した場合、ソースの音声はセンタースピーカーから出ます。メインスピーカーとリアスピーカーからはシネマDSPの効果音のみが出力されます。

## ■ MOVIE THEATER 1 および2

通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリックス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード・デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

マトリックス処理を行わない70mmフィルム6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がり感、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。

### 入カソースがアナログ、PCM、ドルビーデジタル(2チャンネル)の場合

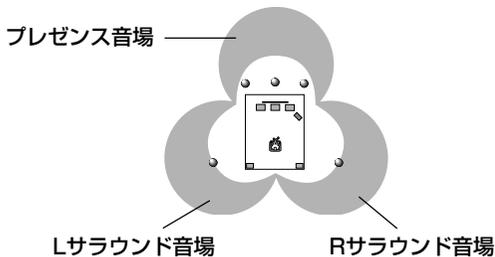


雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

70mm SPECTACLE  
70mm SCI-FI  
70mm ADVENTURE  
70mm GENERAL

最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタルやDTS(デジタルシアターシステムズ)のサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタルやDTSサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

### 入カソースがドルビーデジタル(5.1チャンネル)およびDTSの場合



ドルビーデジタルおよびDTSのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

DGTL SPECTACLE  
DTS SPECTACLE  
DGTL SCI-FI  
DTS SCI-FI  
DGTL ADVENTURE  
DTS ADVENTURE  
DGTL GENERAL  
DTS GENERAL



- 入力モードがAUTOに設定されている場合、ドルビーデジタル信号またはDTS信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場またはDTS再生用音場に切り換わります。



## 故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

### ■ 全般

| 症状                  | 原因   | 解決方法  | 参照ページ   |
|---------------------|--|---|---------|
| 電源を入れてもすぐに切れてしまう。   | 電源プラグの接続が不完全。  | 電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。   | 16      |
|                     | スピーカーコードがショートした状態で電源を入れると保護回路により電源が切れることがある。           | スピーカーの接続を確認してください。  | 14、15   |
| 電源スイッチを押しても電源が入らない。 | 電源プラグの接続が不完全。  | 電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。   | 16      |
| 音や画像が出ない。           | 接続が不完全。  | 接続を確認してください。  | 10 - 15 |
|                     | 再生するソースの選択が適切でない。                                      | INPUT <I/O> キーまたは6CH INPUT キーで正しく選択をしてください。                       | 20      |
|                     | SPEAKERSスイッチ(A、B)が正しく設定されていない。                         | 使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONに設定してください。                           | 20      |
|                     | ボリューム(音量)が絞られている。                                      | ボリュームを大きくしてください。  | 21      |
|                     | 消音されている。   | リモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUMEキーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。              | 21      |
|                     | CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。                          | 本機で再生可能なソースを再生してください。   | —       |
| 映像が出ない。             | 映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。<br><b>DSP-AX520のみ</b>  | 入力側/出力側ともに、同じ種類(コンポジットまたはSビデオどうし)で接続してください。<br><b>DSP-AX520のみ</b> | 12、13   |
| 音声が突然出なくなる。         | ショートなどの原因により保護回路が作動している。                               | スピーカー配線が相互に接触していないことを確認してから、本機のスイッチをONに入れなおしてください。                | 14、15   |
|                     | スリープタイマーが作動した。   | 電源をONにして、ソースを再生しなおしてください。   | 40      |
|                     | 消音されている。   | リモコンのMUTE(消音)キーまたはVOLUMEキーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。              | 21      |
| 片側チャンネルの音がほとんど出ない。  | 接続が不完全。  | 接続を確認してください。また、スピーカーコードの断線も確認してください。                              | 10 - 15 |
|                     | バランスが適正に調節されていない。                                      | BALANCEコントロールで左右メインスピーカーの音量バランスを調節してください。                         | 21      |
| エフェクトスピーカーから音が出ない。  | EFFECT OFFになっている。                                      | EFFECTキーを押して、EFFECT ONIにしてください。                                   | 25      |
|                     | ドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS信号の入っていないソースを再生している。             | 別の音場プログラムを選択してください。   | 48、49   |
|                     | サンプリング周波数96kHzデジタル信号が本機に入力されている。<br><b>DSP-AX520のみ</b> |   | 21      |

| 症状                         | 原因   | 解決方法                                 | 参照ページ   |
|----------------------------|--|--------------------------------------|---------|
| センタースピーカーから音が出ない。          | センタースピーカーレベルが絞られている。                                     | センタースピーカーのレベルを上げます。                  | 38      |
|                            | セットメニューの「CENTER SP」がNONIになっている。                          | センタースピーカーモードを正しく設定します。               | 33      |
|                            | Hi-Fi DSPプログラムNo.1~4を選択している。                             | 別の音場プログラムを選択してください。                  | 48、49   |
|                            | ドルビーデジタルまたはDTSソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。                   |                                      | —       |
| リアスピーカーから音が出ない。            | リアスピーカーレベルが絞られている。                                       | リアスピーカーのレベルを上げます。                    | 38      |
|                            | 音場プログラムのNo. 9でモノラルソースを再生している。                            | 他の音場プログラムを選択して再生します。                 | 48、49   |
| サブウーファーから音が出ない。            | セットメニューの「BASS OUT」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやDTSソースを再生している。     | SWFRまたはBOTHに設定してください。                | 34      |
|                            | セットメニューの「BASS OUT」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。    | BOTHに設定してください。                       | 34      |
|                            | ソースに低音信号(90Hz以下)が含まれていない。                                |                                      | —       |
| 低音の再生不良。                   | サブウーファーを使用していないのにセットメニューの「BASS OUT」がSWFRまたはBOTHに設定されている。 | MAINに設定してください。                       | 34      |
|                            | セットメニューの各スピーカーの出力モード(メイン、センターまたはリア)がスピーカー構成に一致していない。     | 各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。            | 33、34   |
| ハム音が出る。                    | ピンプラグコードの接続が不完全。   | ピンプラグをしっかり差し込みます。                    | 10 - 13 |
| 音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。 | 本機のREC OUT端子に接続された機器の電源がOFFになっている。                       | 接続機器の電源をONにしてください。                   | 10      |
| サラウンドと効果音を付加した音を録音できない。    | サラウンドと効果音を付加した音は録音できません。                                 |                                      | 31      |
| 録音できない。                    | デジタル録音時にアナログソースを入力している。 <b>DSP-AX520のみ</b>               | デジタルソースを入力してください。 <b>DSP-AX520のみ</b> | 10 - 13 |
|                            | 本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。 <b>DSP-AX520のみ</b>          | デジタル接続をしてください。 <b>DSP-AX520のみ</b>    |         |
|                            | アナログ録音時にデジタルソースを入力している。                                  | アナログソースを入力してください。                    |         |
|                            | 本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。                             | アナログ接続をしてください。                       |         |

| 症状   | 原因   | 解決方法                                   | 参照ページ |
|--|--|--|-------|
| スピーカーレベルやセットメニューなどの設定値を変更できない。                       | セットメニューの「9 MEM. GUARD」がONに設定されている。                   | OFFに設定してください。                          | 37    |
| 本機が正常に作動しない。   | 内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。 | コンセントからAC電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。 | —     |
| 本機に接続しているテープデッキまたはCDプレーヤーにヘッドホンを差し込んで聴いていると、音質が劣化する。 | 本機の電源が切れている。   | 本機の電源をONにしてください。                       | —     |
| デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている。                             | 本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。                          | 本機をそれらの機器から離して設置してください。                | —     |

## ■ FM/AM放送の受信

|    | 症状                              | 原因   | 解決方法  | 参照ページ |
|----|---------------------------------|--|---|-------|
| FM | ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。           | FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。         | アンテナの接続を確認してください。FM屋外アンテナを設置してください。         | 26、27 |
|    | FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。 | マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。                      | アンテナの高さや設置場所を変えてください。                       | 26    |
|    | オート選局ができない。                     | FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。         | 屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。またはマニュアル選局をしてください。  | 26、27 |
|    | プリセット選曲ができない。                   | プリセット(メモリー)が消えている。                             | もう一度プリセットしてください。                            | 28、29 |
| AM | オート選局ができない。                     | 電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。                         | AMループアンテナの方向を変えてください。マニュアル選局をしてみてください。      | 26、27 |
|    | “ジー” “ザー” “ガリガリ”などの連続雑音が入る。     | 空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。 | AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。 | 26    |
|    | “ブンブン” “ヒューヒュー”などの雑音が入る。        | 本機の近くでテレビを使用している。                              | 本機からテレビを離してください。                            | —     |

## ■ リモコン

| 症状                     | 原因  | 解決方法  | 参照ページ |
|------------------------|---|---|-------|
| リモコンで操作できない。           | リモコン操作範囲から外れている。                            | 本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。               | 5     |
|                        | 受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっている。      | 照明、または本体の向きを変えてください。                                | —     |
|                        | 乾電池が消耗している。                                 | 乾電池を全て交換してください。                                     | 5     |
| 本機または接続機器がリモコンで操作できない。 | 操作する機器が選択されていない。                            | 操作したい機器のモードキーを押してください。                              | 41    |
|                        | システムコンポーネントは操作できません。                        |   | —     |
|                        | メーカーコードが正しく設定されていない。                        | メーカーコードを設定しなおしてください。同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してみてください。 | 46    |
|                        | メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。 | その機器に付属のリモコンをご使用ください。                               | —     |

本機使用中に、強い外来ノイズ(落雷・過大な静電気など)を受けた場合や誤った操作をした場合などは、本機が正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切った後に電源コードを抜き、約30秒後に再び接続して操作してください。



# 仕様(DSP-AX520)

## オーディオ部

|  |                   |
|--|-------------------|
| 定格出力(6Ω、20Hz~20kHz、0.06%THD)                                   |                   |
| メイン L/R  | 70W+70W           |
| センター   | 70W               |
| リア L/R   | 70W+70W           |
| 実用最大出力(6Ω、EIAJ、1kHz、10%THD)                                    |                   |
| メイン L/R  | 95W+95W           |
| センター   | 95W               |
| リア L/R   | 95W+95W           |
| ダンピングファクター(8Ω、20Hz~20kHz)                                      |                   |
| メイン L/R  | 60以上              |
| 周波数特性<br>(CD-メイン L/R)  | 20Hz~20kHz、±0.5dB |
| 全高調波歪率   |                   |
| CD、他(8Ω、20Hz~20kHz、メイン L/R、35W、EFFECT OFF)                     | 0.025%以下          |
| S/N(IHF-Aネットワーク、入力ショート)  |                   |
| CD、他-メイン L/R、EFFECT OFF、250mV入力                                | 100dB             |
| 残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)   |                   |
| メイン L/R  | 150μV以下           |
| チャンネルセパレーション<br>(VOL.-30dB、EFFECT OFF、1kHz/10kHz、5.1kHzターミネート) |                   |
| CD、他-メイン L/R   | 60dB/45dB         |
| トーンコントロール(メイン L/R)   |                   |
| BASS   | ±10dB/50Hz        |
| TREBLE   | ±10dB/20kHz       |
| ヘッドホン出力/インピーダンス  | 490mV/390Ω        |
| 入力感度/インピーダンス(アナログ)   |                   |
| CD、他   | 150mV/47kΩ        |
| 6CH INPUT  | 150mV/40~47kΩ     |
| 最大許容入力   |                   |
| CD、他(1kHz、0.5%THD)   | 2.2V以上            |
| 出力電圧/インピーダンス(アナログ)   |                   |
| REC OUT  | 150mV/1.2kΩ       |
| SUB WOOFER   | 4.0V/1.2kΩ        |

## ビデオ部

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 信号方式               | NTSC           |
| ビデオレベル             |                |
| コンポジットビデオ          | 1Vp-p/75Ω      |
| Sビデオ               |                |
| Y                  | 1Vp-p/75Ω      |
| C                  | 0.286Vp-p/75Ω  |
| S/N                | 50dB           |
| 周波数特性(MONITOR OUT) |                |
| コンポジットビデオ、Sビデオ     | 5Hz~10MHz、-3dB |

## F Mチューナー部

|                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 受信周波数                   | 76.0MHz~90.0MHz        |
| 50dB S/N感度(1kHz、100%変調) |                        |
| モノ                      | 2.0μV(17.3dBf)         |
| ステレオ                    | 25μV(39.2dBf)          |
| 実効選択度(±400kHz)          | 70dB                   |
| S/N(IHF、モノ/ステレオ)        | 76dB/70dB              |
| 歪率(1kHz、モノ/ステレオ)        | 0.2%/0.3%              |
| ステレオセパレーション(1kHz)       | 45dB                   |
| 周波数特性                   | 20Hz~15kHz、+0.5、-2.0dB |

## AMチューナー部

|       |                |
|-------|----------------|
| 受信周波数 | 531kHz~1611kHz |
| 実用感度  | 300μV/m        |

## 総合

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 電源電圧                      | AC100V、50/60Hz  |
| 消費電力                      | 195W  |
| 待機電力                      | 0.9W  |
| ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W) | 2   |
| 寸法(幅X高さX奥行)               | 435X151X390mm   |
| 重量                        | 10.0kg  |
| 付属品                       | リモコン<br>乾電池(単4X4)<br>AMループアンテナ<br>FM簡易アンテナ<br>リモコン操作チャート<br>簡易接続図 |

仕様、外観および記載内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

●「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。



# 仕様(DSP-AX420)

## オーディオ部

|  |                   |
|--|-------------------|
| 定格出力(6Ω、20Hz~20kHz、0.06%THD)                     |                   |
| メイン L/R .....                                    | 65W+65W           |
| センター .....                                       | 65W               |
| リア L/R .....                                     | 65W+65W           |
| 実用最大出力(6Ω、EIAJ、1kHz、10%THD)                      |                   |
| メイン L/R .....                                    | 90W+90W           |
| センター .....                                       | 90W               |
| リア L/R .....                                     | 90W+90W           |
| ダンピングファクター(8Ω、20Hz~20kHz)                        |                   |
| メイン L/R .....                                    | 60以上              |
| 周波数特性  |                   |
| (CD-メイン L/R) .....                               | 20Hz~20kHz、±0.5dB |
| 全高調波歪率   |                   |
| CD、他(8Ω、20Hz~20kHz、メイン L/R、30W、EFFECT OFF) ..... | 0.025%以下          |
| S/N(IHF-Aネットワーク、入力ショート)                          |                   |
| CD、他-メイン L/R、EFFECT OFF、250mV入力 .....            | 100dB             |
| 残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)                               |                   |
| メイン L/R .....                                    | 150μV以下           |
| チャンネルセパレーション                                     |                   |
| (VOL、-30dB、EFFECT OFF、1kHz/10kHz、5.1kHzターミネート)   |                   |
| CD、他-メイン L/R .....                               | 60dB/45dB         |
| トーンコントロール(メイン L/R)                               |                   |
| BASS .....                                       | ±10dB/50Hz        |
| TREBLE .....                                     | ±10dB/20kHz       |
| ヘッドホン出力/インピーダンス                                  | 470mV/390Ω        |
| 入力感度/インピーダンス(アナログ)                               |                   |
| CD、他 .....                                       | 150mV/47kΩ        |
| 6CH INPUT .....                                  | 150mV/40~47kΩ     |
| 最大許容入力   |                   |
| CD、他(1kHz、0.5%THD) .....                         | 2.2V以上            |
| 出力電圧/インピーダンス(アナログ)                               |                   |
| REC OUT .....                                    | 150mV/1.2kΩ       |
| SUB WOOFER .....                                 | 4.0V/1.2kΩ        |

## ビデオ部

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| 信号方式 .....         | NTSC           |
| ビデオレベル             |                |
| コンポジットビデオ .....    | 1Vp-p/75Ω      |
| S/N .....          | 50dB           |
| 周波数特性(MONITOR OUT) |                |
| コンポジットビデオ .....    | 5Hz~10MHz、-3dB |

## FMチューナー部

|                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 受信周波数 .....             | 76.0MHz~90.0MHz        |
| 50dB S/N感度(1kHz、100%変調) |                        |
| モノ .....                | 2.0μV(17.3dBf)         |
| ステレオ .....              | 25μV(39.2dBf)          |
| 実効選択度(±400kHz) .....    | 70dB                   |
| S/N(IHF、モノ/ステレオ) .....  | 76dB/70dB              |
| 歪率(1kHz、モノ/ステレオ) .....  | 0.2%/0.3%              |
| ステレオセパレーション(1kHz) ..... | 45dB                   |
| 周波数特性 .....             | 20Hz~15kHz、+0.5、-2.0dB |

## AMチューナー部

|             |                |
|-------------|----------------|
| 受信周波数 ..... | 531kHz~1611kHz |
| 実用感度 .....  | 300μV/m        |

## 総合

|                                 |                |
|---------------------------------|----------------|
| 電源電圧 .....                      | AC100V、50/60Hz |
| 消費電力 .....                      | 190W           |
| 待機電力 .....                      | 0.9W           |
| ACアウトレット(電源スイッチ連動、合計100W) ..... | 2              |
| 寸法(幅×高さ×奥行) .....               | 435×151×390mm  |
| 重量 .....                        | 9.5kg          |
| 付属品 .....                       | リモコン           |
| .....                           | 乾電池(単4×4)      |
| .....                           | AMループアンテナ      |
| .....                           | FM簡易アンテナ       |
| .....                           | リモコン操作チャート     |
| .....                           | 簡易接続図          |

仕様、外観および記載内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

- 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。



## ■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル記録方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。

この方式は現在、ほとんどのビデオテープ、LDの他、テレビ、ケーブル放送などにも広く普及しています。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーが、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

## ■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声をお届けするデジタルサラウンドシステムです。フロントの3チャンネル(レフト、センター、ライト)と、リアのステレオ2チャンネルがあり、それぞれフル帯域の音声成分を持っています。さらにLFE(Low Frequency Effect)と呼ばれる、他のチャンネルとは別に設けられた低音域専用のチャンネルを加え、合計5.1チャンネルとなります(LFEは0.1とカウントされる)。

ドルビーサラウンドと比較するとリアがステレオ2チャンネルで収録されているため、音の移動感や周囲の環境音がより明確に感じられます。また、フル帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)と、正確な音の定位が、かつてないような迫力とリアリズムを再現します。

本機では、モノラルから最高5.1チャンネルまで様々なソースをお楽しみいただけます。

## ■ DTS(デジタル・シアター・システムズ) デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる6チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。その厚みのある音と自然な空間表現を家庭でも楽しめるように、DTSテクノロジー社が家庭用システムを開発しました。極めて劣化の少ないクリアな音質の6チャンネル(技術的にはレフト、ライト、センター、2つのリアチャンネルに、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)です。

## ■ LFE 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、フル帯域の5チャンネルに対し、効果的な場面で低音を増強するために録音されるので、0.1とカウントされます。

## ■ シネマDSP

ドルビーサラウンド、DTSのシステムは、もともと映画館用にデザインされているため、スピーカーの数が多く、音響効果を考慮して設計された映画館で、その効果を最大限に発揮します。ご家庭では、当然ながらお部屋の広さ、壁の材質、スピーカーの数などの条件が異なるため、視聴感に差がでてしまいます。そこでヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を自在に応用し、ドルビープロロジック、ドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせ、音のスケールや奥行き、音量感をおぎない、ご家庭のリビングルームで映画館のような視聴体験を可能にします。

## ■ サイレントシアター

音場ごとにヘッドホン用のパラメーターが設定され、自然で立体感あふれる全音場プログラムをヘッドホンでも楽しめます。

自然で立体感あふれる音場効果のヘッドホンDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

## ■ バーチャルシネマDSP

リアスピーカーなしでも仮想的リアスピーカーでDSPの音場サラウンド効果を楽しめるバーチャルシネマDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

また、センタースピーカーを設置できない場合でも、最低限メインL/Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

## ■ Sビデオ信号 のみ

Sビデオ信号は、通常ならピンコードで伝送される映像信号を、専用のSビデオコードを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生することができます。

## ■ PCM(リニアPCM)

アナログ音声信号を圧縮せず、そのままデジタル信号化して録音・伝送する信号フォーマットです。CDやDVDオーディオの録音方法が例として挙げられます。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を使います。“PCM”は、パルス・コード・モジュレーションの略で、アナログ信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

## ■ サンプリング周波数／量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。再生できる周波数帯は“サンプリング周波数”で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは“量子化ビット数”で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることとなります。

## ■ I/Oアサイン(セットメニュー)

通常、端子名に表示されている通りに機器を接続しますが、本機には接続する機器に合わせて端子を割り当てる(アサインする)機能があります。使用する機器と本機のデジタル端子の機器名が異なる場合は、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。また、使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合など、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を有効に接続することができます。



# 索引

## ア

|      |    |
|------|----|
| アンテナ | 26 |
| 音場効果 | 24 |

## カ

|         |    |
|---------|----|
| 外部デコーダー | 11 |
|---------|----|

## サ

|           |                     |
|-----------|---------------------|
| 再生        | 20                  |
| サイレントシアター | 25、56               |
| サブウーファー   | 15                  |
| サンプリング周波数 | 21 (DSP-AX520のみ)、57 |
| シネマDSP    | 48、56               |
| ステレオ再生    | 25                  |
| スピーカー     |                     |

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| スピーカーレベル(TIME/LEVELキー使用) | 38    |
| スピーカーモード(セットメニュー設定)      | 17、33 |
| スピーカーのレベル調節(テストトーン使用)    | 18    |
| 設置                       | 8     |

|          |    |
|----------|----|
| スリープタイマー | 40 |
|----------|----|

## 接続

|  |    |
|--|----|
| オーディオ機器(MDレコーダー/テープデッキ、<br>CDレコーダー、CDプレーヤー)    | 10 |
| 外部デコーダー  | 11 |
| スピーカー  | 14 |
| 電源コード  | 16 |
| ビデオ機器(DVDプレーヤー、LDプレーヤー、<br>ビデオデッキ、デジタルTVチューナー) | 12 |

|         |       |
|---------|-------|
| セットメニュー | 17、32 |
|---------|-------|

|         |    |
|---------|----|
| 選局する    | 27 |
| オート選局   | 27 |
| マニュアル選局 | 27 |

## タ

|                       |    |
|-----------------------|----|
| タイマー再生/録音             | 31 |
| デジタル端子                | 10 |
| ディスプレイ                | 6  |
| ディレイタイム               | 38 |
| テストトーン                | 18 |
| 電源供給コンセント             | 16 |
| ドルビーサラウンド(ドルビープロロジック) | 56 |
| ドルビーデジタル              | 56 |

## ナ

|       |    |
|-------|----|
| 入力モード | 22 |
|-------|----|

## ハ

|             |       |
|-------------|-------|
| バーチャルシネマDSP | 25、56 |
| バランス        | 3、21  |
| ビデオ端子       | 12    |
| 付属品         | 表紙裏   |
| プリセット局      |       |
| 入れかえ        | 30    |
| 呼び出し(選局)    | 29    |
| フロントパネル     | 2     |
| 防塵キャップ      | 10    |
| 放送局のプリセット   | 28    |
| オートプリセット    | 28    |
| マニュアルプリセット  | 29    |

## マ、ヤ

|            |             |
|------------|-------------|
| ミュート       | 21          |
| メーカーコード    | 46、59       |
| メモリーバックアップ | 28、31、33、39 |
| モードキー      | 4、41        |

## ラ、ワ

|       |      |
|-------|------|
| リアパネル | 7    |
| リモコン  |      |
| 基本操作  | 4    |
| 使用範囲  | 5    |
| 電池    | 5    |
| モードキー | 4、41 |
| 録音/録画 | 31   |

## A, B

|                       |    |
|-----------------------|----|
| AC OUTLETS(電源供給コンセント) | 16 |
| BGV(バックグラウンドビデオ)機能    | 22 |

## C

|            |    |
|------------|----|
| CBL/SATモード | 45 |
| CDモード      | 43 |

## D

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| DISPLAY SET(セットメニュー)  | 37    |
| DIMMER                | 37    |
| DOLBY D. SET(セットメニュー) | 36    |
| D-RANGE               | 36    |
| LFE LEVEL             | 36    |
| 音場プログラム               | 24、48 |
| シネマDSPプログラム           | 48    |
| Hi-Fi DSPプログラム        | 48    |
| DTS(デジタル・シアター・システムズ)  | 56    |
| DTS SET(セットメニュー)      | 37    |
| DVD/LDモード             | 44    |
| DVD MENUモード           | 44    |

## E, F, G, H, I, J, K

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| HP TONE CTRL(セットメニュー) | 35    |
| INPUT MODE(セットメニュー)   | 36    |
| I/O ASSIGN(セットメニュー)   | 35、57 |

## L

|                   |       |
|-------------------|-------|
| LFE(LFE 0.1チャンネル) | 36、56 |
|-------------------|-------|

## M, N, O

|                     |    |
|---------------------|----|
| MEM. GUARD(セットメニュー) | 37 |
|---------------------|----|

## P, Q, R

|     |    |
|-----|----|
| PCM | 57 |
|-----|----|

## S

|                      |    |
|----------------------|----|
| SP DLY TIME(セットメニュー) | 37 |
| SPEAKER SET(セットメニュー) | 33 |
| BASS OUT             | 34 |
| CENTER SP            | 33 |
| MAIN LVL             | 34 |
| MAIN SP              | 34 |
| REAR LR SP           | 34 |

## T, U, V, W, X, Y, Z

|              |    |
|--------------|----|
| TAPE/MDモード   | 42 |
| TIME/LEVELキー | 39 |
| TVモード        | 45 |
| VCRモード       | 45 |

# メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

|                    |  |               |  |                      |  |           |  |
|--------------------|--|---------------|--|----------------------|--|-----------|--|
| <b>TV</b>          |  | <b>ビデオデッキ</b> |  | <b>CD プレーヤー</b>      |  | OPTIMUS   | 0225, 0245, 0555, 0595, 0845, 0855, 0865, 0895, 0935 |
| AIWA               | 1481                                     | HITACHI       | 0102, 0562, 0572, 0582, 0592, 0602, 0992             | ACOUSTIC RESEARCH    | 1295   | PANASONIC | 0055, 0825, 1095, 1125                               |
| FUNAI              | 1341, 1361, 1411, 1451                   | MITSUBISHI    | 0452, 0462, 0542, 0762, 0952, 1082                   | ADC                  | 0025, 0065   | PHILIPS   | 0165, 0215   |
| GENERAL            | 1291                                     | NEC           | 0122, 0202, 0292, 0422, 0432, 0542, 0632             | ADCOM                | 0205, 0255, 1015                                     | PIONEER   | 0305, 0935, 1045                                     |
| HITACHI            | 1351                                     | PANASONIC     | 0012, 0052, 0092, 0222, 0372, 0382, 0392, 0412, 0932 | AIWA                 | 0295, 0945, 1035, 1055                               | PROTON    | 0215, 1185   |
| MITSUBISHI         | 1381                                     | SANYO         | 0242, 0612, 0842, 0902, 0922                         | AKAI                 | 0175, 0485, 0535                                     | QUASAR    | 0055   |
| NEC                | 1321                                     | SHARP         | 0402, 0472   | AUDIO-TECHNICA       | 0545   | RCA       | 0205, 0915, 1115                                     |
| PANASONIC          | 1311, 1371, 1431                         | SONY          | 0032, 0332, 0352, 0362, 0672, 0792, 0932             | BSR                  | 0245, 0655, 0775                                     | REALISTIC | 0205, 0225, 0235, 0325, 0555, 0845                   |
| PIONEER            | 1331                                     | TOSHIBA       | 0062, 0302, 0342, 0622, 0682, 0712, 0762             | CALIFORNIA AUDIO LAB | 0055   | REVOX     | 1175   |
| SAMSUNG            | 1461                                     | VICTOR        | 0202, 0522, 0532, 0542, 0552                         | CARVER               | 0285, 1135   | ROTEL     | 0215   |
| SANYO              | 1231, 1251, 1261                         | YAMAHA        | 0202, 0632   | CROWN                | 0185   | SAE       | 0215   |
| SHARP              | 1241, 1271                               |               |  | DENON                | 0275, 0875, 0885                                     | SANSUI    | 0215, 0625, 0975, 1025, 1105                         |
| SONY               | 1281, 1441                               |               |  | EMERSON              | 0205, 0325, 1105                                     | SANYO     | 0145, 0555, 0635, 0765                               |
| TOSHIBA            | 1301                                     |               |  | FISHER               | 0095, 0555, 0925, 1005                               | SCOTT     | 0325, 1105   |
| VICTOR             | 1201, 1211, 1221                         |               |  | GARRARD              | 0365   | SEARS     | 0345   |
| ベスト                | 1321, 1341, 1361, 1411, 1451, 1461, 1471 |               |  | GENEXXA              | 0305, 0325, 1105                                     | SHARP     | 0235, 0665, 0895, 1065, 1075                         |
| YAMAHA             | 0361, 1031, 1111                         |               |  | HARMAN/KARDON        | 0105, 0175, 0465, 0995                               | SHERWOOD  | 0115, 0235, 0395, 0475                               |
|                    |  |               |  | HITACHI              | 0195, 0205, 0505, 0815                               | SONY      | 0065, 0565, 0865, 1145                               |
| <b>ケーブルTVチューナー</b> |  |               |  | KENWOOD              | 0045, 0095, 0405, 0585, 0725, 0735, 0745, 0755, 0895 | STS       | 0025   |
| Pioneer            | 0006, 0086                               |               |  | KYOCERA              | 0025   | TEAC      | 0235, 0335, 0385, 0525, 0795, 0835, 1355             |
| <b>衛星チューナー</b>     |  |               |  | LUXMAN               | 0075, 0425, 0675, 0705, 0715, 0985                   | TECHNICS  | 0055, 0605, 1095                                     |
| 対応メーカーなし           |  |               |  | MAGNAVOX             | 0165, 0215, 0645, 0955                               | VICTOR    | 0315   |
|                    |  |               |  | MARANTZ              | 0215, 0235, 0375, 0785, 1345                         | WARDS     | 0175   |
|                    |  |               |  | MCINTOSH             | 0355, 1085   | YAMAHA    | 0005, 0015, 0085, 0415, 0545, 0575, 1065             |
|                    |  |               |  | MCS                  | 0905, 1315   |           |  |
|                    |  |               |  | MEMOREX              | 0205, 0225, 0235, 0305, 0325, 1105                   |           |  |
|                    |  |               |  | MISSION              | 0215   |           |  |
|                    |  |               |  | MITSUBISHI           | 0135, 0445   |           |  |
|                    |  |               |  | MTC                  | 1255   |           |  |
|                    |  |               |  | NAD                  | 0035, 0615, 0685, 0695                               |           |  |
|                    |  |               |  | NAKAMICHI            | 0125, 0435, 0515                                     |           |  |
|                    |  |               |  | NEC                  | 0255, 0905, 0965                                     |           |  |
|                    |  |               |  | NIKKO                | 0545, 1005   |           |  |
|                    |  |               |  | ONKYO                | 0155, 0455, 0495, 0805, 1155                         |           |  |

---

CD レコーダー/  
CD-RW

|         |            |
|---------|------------|
| HITACHI | 0474       |
| MARANTZ | 0484, 0494 |
| PHILIPS | 0444       |
| PIONEER | 0454, 0464 |
| VICTOR  | 0504       |
| YAMAHA  | 0414       |

---

MD レコーダー

|         |                     |
|---------|---------------------|
| KENWOOD | 0384                |
| PIONEER | 0424                |
| SHARP   | 0434                |
| SONY    | 0394                |
| YAMAHA  | 0024, 0394,<br>0404 |

---

テープデッキ

|            |   |
|------------|---|
| AIWA       | 0094, 0214,<br>0224                               |
| AKAI       | 0184  |
| CARVER     | 0094  |
| DENON      | 0304  |
| FISHER     | 0144  |
| GARRARD    | 0194, 0204  |
| KENWOOD    | 0124, 0134,<br>0154, 0234,<br>0244, 0264          |
| MAGNAVOX   | 0094  |
| MARANTZ    | 0094, 0344  |
| MITSUBISHI | 0184  |
| ONKYO      | 0364, 0374  |
| OPTIMUS    | 0034, 0064,<br>0204, 0334                         |
| PHILIPS    | 0094  |
| PIONEER    | 0034, 0044,<br>0064                               |
| REVOX      | 0354  |
| SANSUI     | 0094, 0344  |
| SHARP      | 0264  |
| SHERWOOD   | 0334  |
| SONY       | 0054, 0084,<br>0324                               |
| TEAC       | 0194, 0254  |
| TECHNICS   | 0074, 0314  |
| VICTOR     | 0274, 0284,<br>0294                               |
| WARDS      | 0034  |
| YAMAHA     | 0004, 0014,<br>0104, 0114,<br>0164, 0174,<br>0264 |

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**  
お買上げ日より1年間です。
- **保証期間中の修理**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**  
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
  - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
  - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
  - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**  
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **持ち込み修理のお願い**  
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- **製品の状態は詳しく**  
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

- **スピーカーの修理**  
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**  
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

-----  
携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00、13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

## ■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



### ★永年ご使用のAV製品の点検を!

#### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



#### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



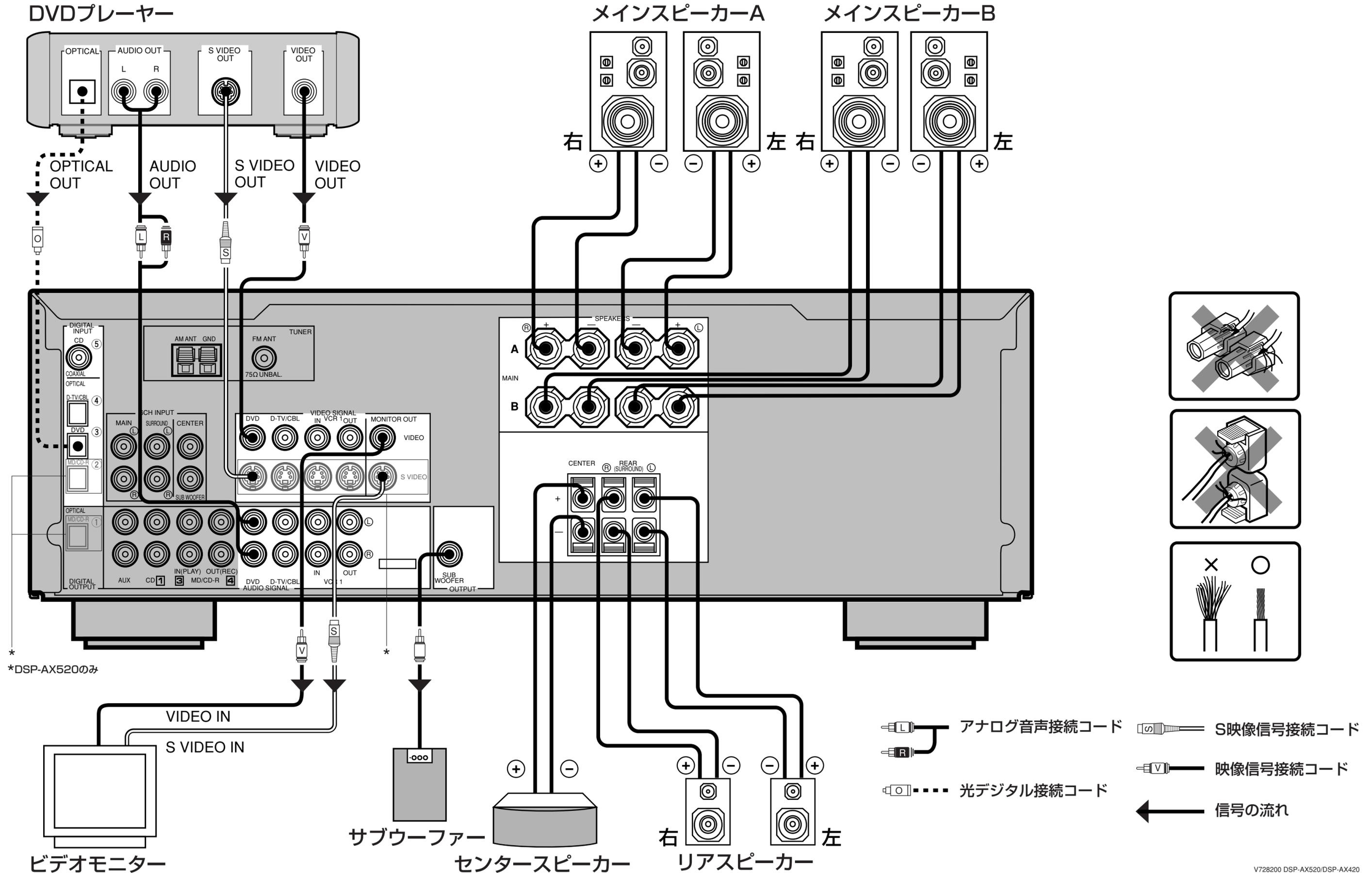
ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

# 簡易接続図 (5.1チャンネルのデジタルソースを再生するとき)



# リモコン操作チャート

本機に付属のリモコンで本機以外のいくつかのヤマハAV機器を操作できます。また各メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定することにより、他社のいくつかの機器(またはヤマハのいくつかの機器)を操作することもできます。

## メモ

- 工場出荷時には各モードごとにヤマハのメーカーコードが設定されています。お手持ちのヤマハAV機器を操作できないときには、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。
- 他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

### 操作モードについて

本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まずモードキーで選んでから操作します。

**AMP(TUNER)**  
本機の操作ができます。

**CD**  
工場出荷時はヤマハCDプレーヤー操作用のメーカーコードが設定されています。

**DVD/LDとDVD MENU**  
DVD/LDとDVD MENUモードでDVDプレーヤーが、DVD/LDモードでLDプレーヤーの操作ができます。工場出荷時はヤマハDVDプレーヤー操作用のメーカーコードが設定されています。

**TAPE/MD**  
工場出荷時はヤマハMDレコーダー操作用のメーカーコードが設定されています。テープデッキまたはCDレコーダーを操作するときはそれぞれのメーカーコードを設定してください。

**VCR**  
ビデオデッキの操作ができます。

**CBL/SAT**  
ケーブルテレビや衛星放送チューナーの操作ができます。

**TV**  
テレビの操作ができます。



- AMP(TUNER)以外のモードキーには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードを設定して操作することができます。

## AMP(TUNER)モード

本機の操作ができます。

**インジケーター**  
リモコンのモードキーを押したときおよび信号が正しく送信されるとインジケーターが光ります。

**モードキー**  
リモコン操作したい機器を選びます。本機を操作するときは、AMP(TUNER)モードキーを押してから操作します。

**POWERキー**  
本機の電源をオン/スタンバイモードに切り換えます。

**インプットセレクター**  
再生したい入力ソースを選びます。

**TESTキー**  
テストトーンをオン/オフします。

**MUTEキー**  
本機の音を一時的に消します。解除するにはMUTEキーをもう一度押します。

**VOLUMEキー**  
全体の音量を調節します。

**SLEEPキー**  
スリープタイマーを設定します。

**-/+キー**  
セットメニューの設定、ディレイタイム、スピーカー出力の調節をします。

**TIME/LEVELキー**  
ディレイタイム、スピーカー出力を調節するときに押します。

**6CH INPUT**  
6CH INPUT端子に接続したAV機器を再生します。

**EFFECTキー**  
音場効果をオン/オフします。

**A/B/C/D/Eキー**  
本機のプリセットされた放送局のグループを選びます。

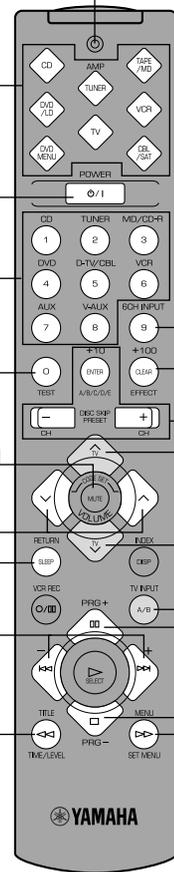
**PRESET -/+キー**  
本機のプリセットされた放送局を選びます。

**TV VOLUME**

**TV INPUT**

**PRG +/-キー**  
音場プログラムを選びます。

**SET MENUキー**  
セットメニューの項目を選ぶときに押します。



## TAPE/MDモード

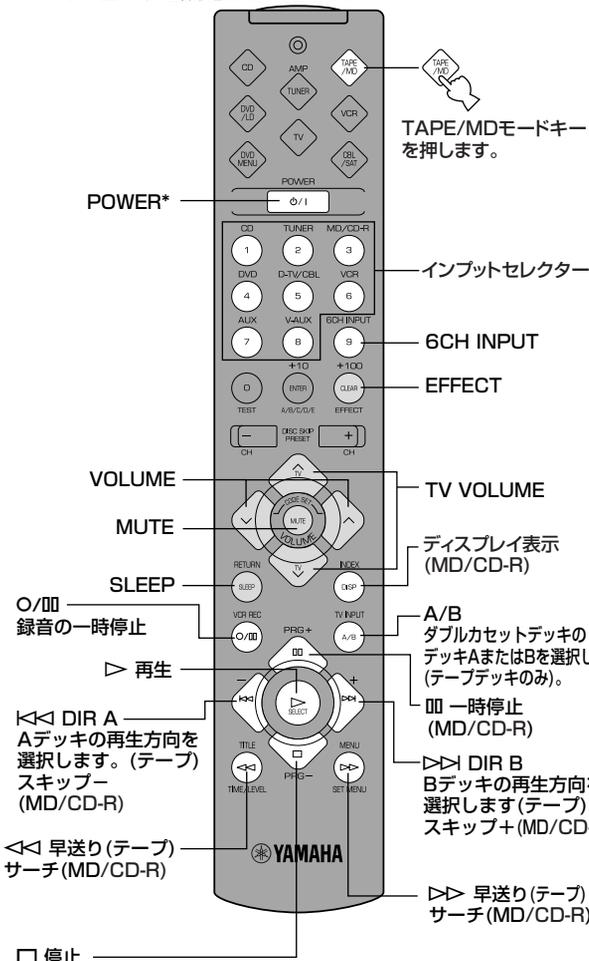
ヤマハのMDレコーダーが操作できます。テープデッキまたはCDレコーダーを操作する場合は、それぞれのメーカーコードを設定してください。

## CDモード

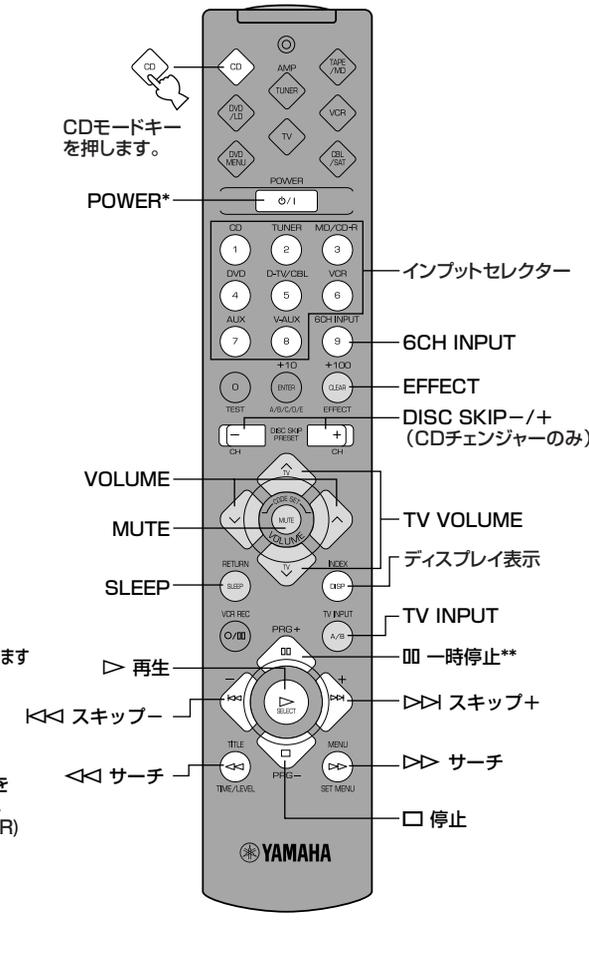
ヤマハのCDプレーヤーが操作できます。

## DVD/LDモード

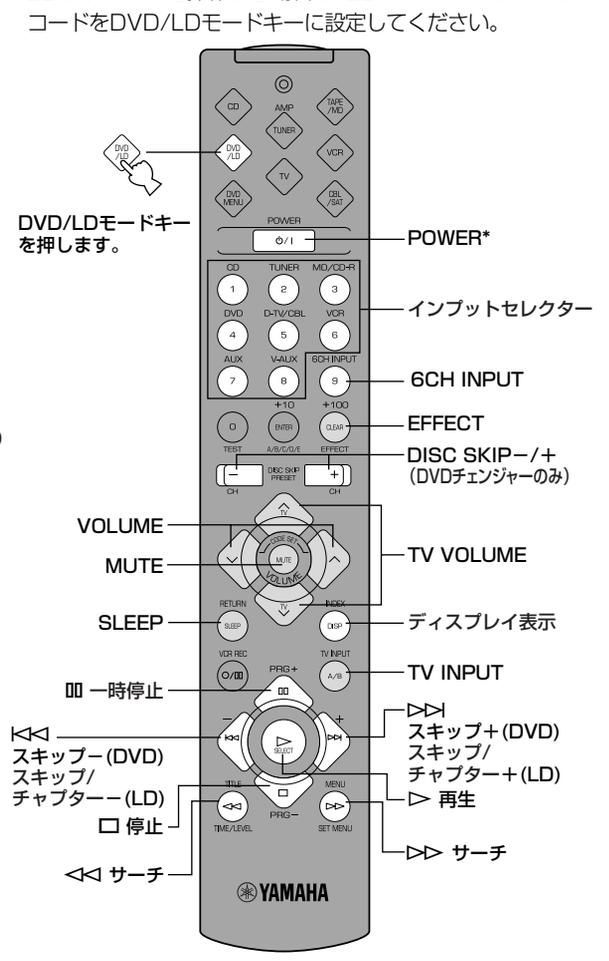
DVDプレーヤーが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUモードに切り換えます。LDプレーヤーを操作する場合は、LDプレーヤーのメーカーコードをDVD/LDモードキーに設定してください。



- \* 工場出荷時およびヤマハテープデッキ、MDレコーダーおよびCDレコーダーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。(リモコンに電源オンキーのあるテープデッキ、MDレコーダーおよびCDレコーダーのメーカーコードを設定した場合、その機器の電源が入ります。)



- \* 工場出荷時のメーカーコードおよびヤマハCDプレーヤーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。(リモコンに電源オンキーのあるCDプレーヤーのメーカーコードを設定した場合、CDプレーヤーの電源が入ります。)
- \*\* ヤマハCDプレーヤーを操作するときは、ポーズ/ストップ機能になります。

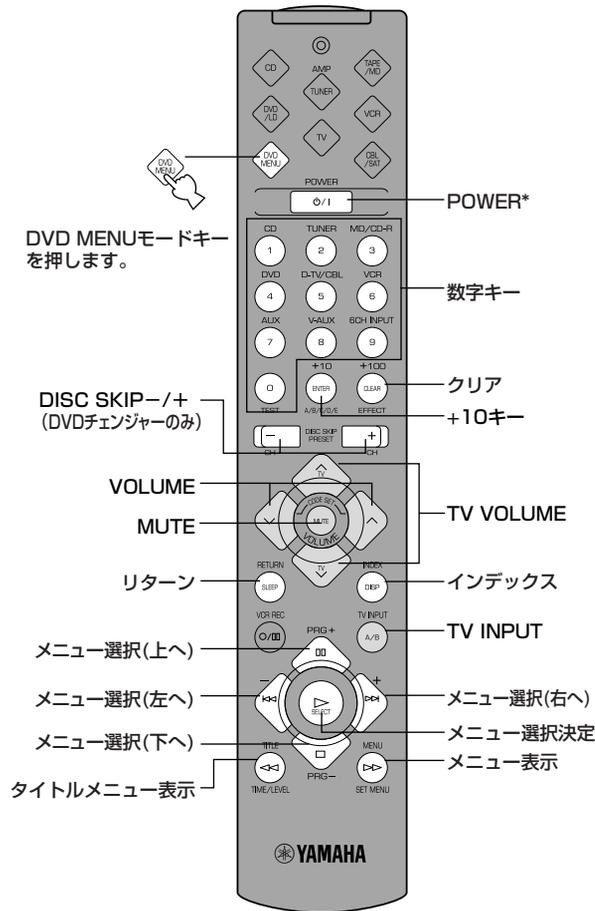


- \* 工場出荷時のメーカーコードおよびヤマハDVDまたはLDプレーヤーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。(リモコンに電源オンキーのあるDVDまたはLDプレーヤーのメーカーコードを設定した場合、その機器の電源が入ります。)

# リモコン操作チャート

## DVD MENUモード

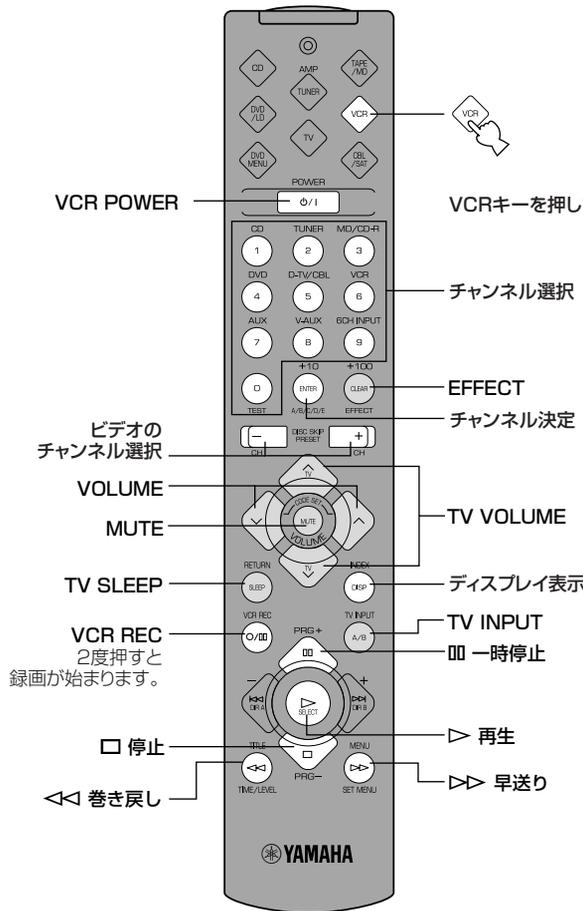
DVDメニューが操作できます。



- \* ヤマハDVDプレーヤーのメーカーコードを設定したときは、本機の電源が入ります。(リモコンに電源オンキーがあるDVDプレーヤーのメーカーコードを設定した場合、DVDプレーヤーの電源が入ります。)
- \* DVDプレーヤーによっては、DVDメニューの操作ができないものもあります。

## VCRモード

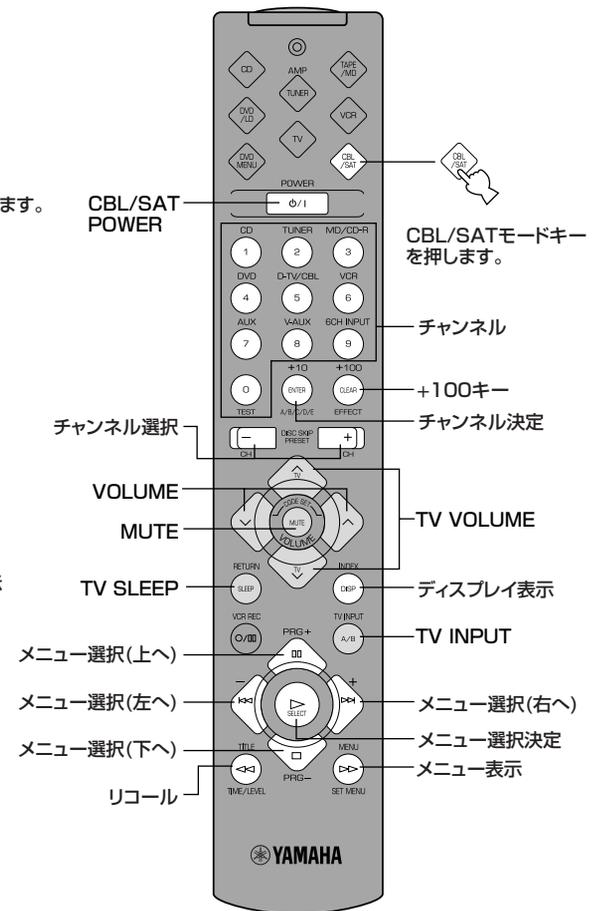
ビデオデッキのメーカーコードを設定した後に操作できます。



- \* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

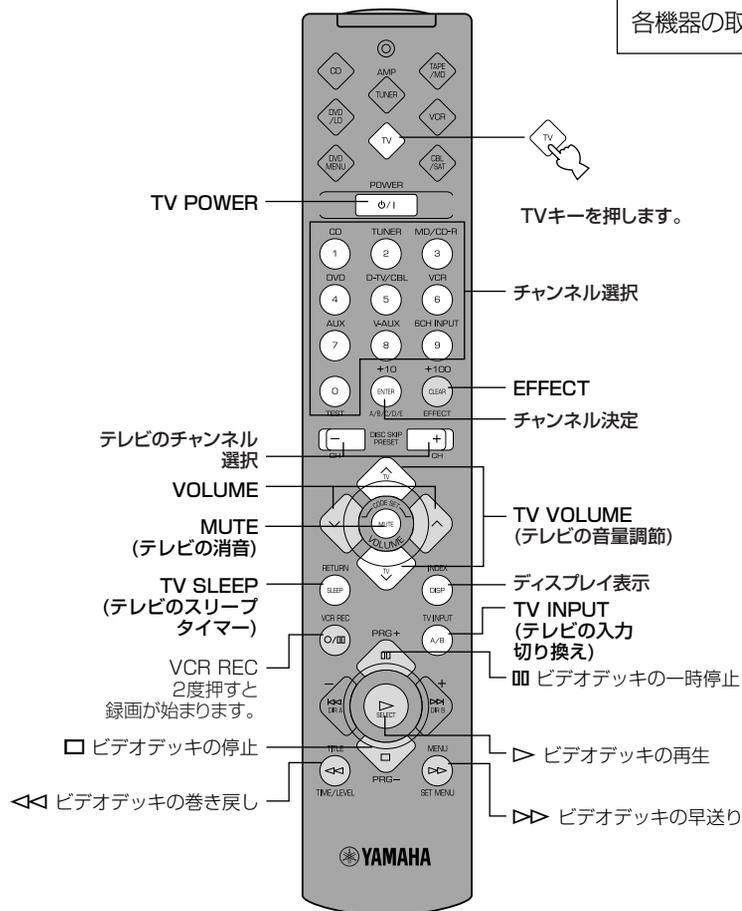
## CBL/SATモード

ケーブルTVや衛星放送チューナーのメーカーコードを設定した後に操作できます。



## TVモード

テレビのメーカーコードを設定した後に操作できます。



- \* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

くわしくは、本機の取扱説明書をご覧ください。また、本機以外の機器を操作する場合、機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもありますので各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。